明治三十九年二月二十三日發行
（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百九拾五號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十日發行
內務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百九拾五號目次

私立 大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならすや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんとは皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んとはいと易からずこれ衛生の術の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會と云ひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講演談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲に盡すあらんとす玆に本會の旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續は卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知人より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に仰ぐものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事十名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は會合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け庶記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知巳の婦人を本會々場誘致し講義演說等を傍聽せしむるを得但衣服は總て質素たるべきこと●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件決定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て二三銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計協發行の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件　第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配付すべし●第卅一條　會員又は本會以外の者にして金圓若くは寄物品等を本會に寄贈する者あるときは本會々長の名を以て謝狀を附し寄附者の姓名及品目を簿冊に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券一錢）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込築土八幡町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは忠告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

東伏見宮依仁親王妃
總裁　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　濵尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
仝　羽田三緒子
仝　岡田德子
仝　高木かう子
仝　山本多穗子
仝　松平芳子
仝　三浦敎子

評議員　石川貞子
仝　岩下ゆか子
仝　濵田捨子
仝　長谷川仲子
仝　仁禮壽賀子
仝　四　升子
仝　穗積歌子
仝　土肥多越子
仝　緒方悅子
仝　岡山とし子
仝　小川孝子
仝　男爵夫人　加藤鈴子
仝　片山・龜子
仝　吉武綠枝子
仝　丹波貞子
仝　高橋學子
仝　田村きよ子
仝　相馬陸子
仝　南部限子
仝　男爵夫人　中濵芳子
仝　子爵夫人　松井正子
仝　岸　[illegible]子
仝　三宅藤子
仝　宮本樂子
仝　宮下吹子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別贊成員

（●は本會に於て講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士　●入澤達吉君
理學博士　●飯島魁君
ドクトル　●伊澤信平君
●色川圀士君
醫學士　●伊東祐彦君
ドクトル　●飯盛挺造君
醫學博士　●伊藤隼三君
理學博士　●石川千代松君
[illegible]　●岩井禎造君
醫學士　石原久君
醫學士　●磐瀬雄一君
醫學士　●石原喜久太郎君
貴族院議員　濵尾新君
醫學博士　●濵田玄達君
法學博士　●鳩山和夫君
東京　萩原彌四郎君
醫學博士　芳賀榮二郎君
●長谷川泰君
新潟　●長谷川一詮君
小兒科　小原頼之君
醫學博士　●岡田榮吉君
醫學博士　●林春雄君
醫學士　●佐藤達次郎君
醫學博士　●緒方正規君
步兵中佐　●堀內文次郎君
醫學博士　●土肥慶藏君
醫學博士　●岡田和一郎君

醫學博士　●大澤謙二君
醫學士　●大西秀治君
醫學博士　●大澤岳太郎君
一等藥劑官　●恩田重信君
醫學士　若杉喜三郎君
男爵　加藤弘之君
ドクトル　●加藤照麿君
醫學士　●賀古鶴所君
醫學博士　●河本重次郎君
醫學博士　●片山國嘉君
醫學士　●川上雅誌君
醫學士　●櫻田鷄一郎君
醫學博士　●金杉英五郎君
醫學士　●笠原光興君
醫學士　●唐澤光德君
醫學博士　●高橋順太郎君
ドクトル　●高山紀齋君
醫學博士　●高木兼寬君
法學博士　高木豐三君
醫學博士　●田代義德君
新潟　●田代亮助君
男爵　●高崎正風君
醫學士　●竹中成憲君
醫學士　●高田耕安君
新潟[illegible]長　●高橋辰五郎君
藥學博士　丹波敬三君
醫學士　高橋貞碩君
藥學博士　●田原良純君
醫學士　●田村光顯君
醫學士　●久保猪之吉君
醫學士　●米山彥郎君
二等軍醫正　●星野俊光君
醫學士　●宮本叔君
三等軍醫正　●横井忠國君
大日本敎育會長　辻新次君
理學博士　●坪井正五郎君
醫學博士　●長與稱吉君
男爵　南部[illegible]男君
藥學博士　●長井長義君
醫學博士　●中濵東一郎君

醫學士　●黑田玄通君
醫學士　●栗本庸勝君
海軍中佐　●小笠原長生君
醫學士　村松紋三君
醫學博士　●隈川宗雄君
醫學博士　●榮木東明君
醫學士　●山田致三君
醫學士　●山田弘倫君
醫學士　●山根正次君
岡山　●山川春二君
醫學士　●丸茂文良君
衞生試驗所技手　●丸山良四郎君
ドクトル　●松山陽太郎君
ドクトル　●小此木信六郎君
盲啞學校長　●小西信八君
廣島　小泉貫君
醫學士　●古川榮君
東京　布施正顯君
[illegible]　●後藤新平君
[illegible]大學敎授　●エ、ベルツ君
醫學士　●甲野棐君
文部書記官　●寺田勇吉君
醫學士　●寺田豐作君
醫學士　●寺田織尼君
子爵　●秋元興朝君
前軍醫總監　●足立寬君
ドクトル　●新井古芳君
ドクトル　●富士川游君
高崎醫會長　●土谷全次君
產科婦人科　●水原衞君
ドクトル　●久保田誠麿君
醫學博士　●佐々木政吉君
醫學士　●淺田次君
醫學博士　●朝倉文三君
ドクトル　●朝山莊六君
高崎　●秋田聰太郎君
醫學博士　●佐藤三吉君
醫學士　●櫻井郁二郎君
醫學士　●佐藤恒久君
ドクトル　佐伯理一郎君

醫學博士　●榊順次郎君
醫學士　●榊保三郎君
醫學士　●櫻井恒次郎君
醫學博士　●桐淵鏡次君
醫學士　●北村精造君
醫學博士　●北島多一君
ドクトル　●北川乙二郎君
醫學博士　●木下正中君
醫學士　●北島小太郎君
醫學博士　●北里柴三郎君
醫學博士　●三浦守治君
醫學博士　●三浦謹之助君
小兒科專門　●宮本仲君
理學博士　●箕作佳吉君
醫學博士　●三島通良君
醫學博士　●三宅秀君
醫學博士　●三輪信太郎君
伯爵　土方久元君
醫學士　●島村俊一君
醫學博士　●弘田長君
ドクトル　●日高昂君
ドクトル　●須川宗尉君
醫學士　澄川德君
醫學博士　●木村德衞君
醫學博士　●森林太郎君
醫學士　●花川三男三君
醫學士　●波多野惇君
醫學博士　●吳秀三君
ミス　●ヒウース
ミセッス　●コーツ
ドクトル　●菊池循一君
醫學士　●橋本武郎君
醫學士　●鳥居左袮洋君
ドクトル　●土川卯三郎君

三月總會告知

三月三日第一土曜日午後一時半より神田區一ッ橋通女子職業學校に於て總會相催し候(晴雨共)

當日は總裁東伏見宮妃殿下の御臨場を願ひ奉るべく候諸報告の外左記佐藤博士の演說及ドクトル富士川游氏の前回より續きたる疾病に關する講話有之候同氏の講話は追々佳境に入り畵圖標本の外多く實物をも示さるゝよしなれば御親戚御知友御誘引奮ふて御參會を希望致し候

一演題未定　　醫學博士　佐藤達次郎君

一疾病の話　　ドクトル　富士川　游君

明治三十九年二月　　私立大日本婦人衛生會





（上圖）私立大日本婦人衛生會新潟支會々長　竹山れつ子

（下圖）新潟縣竹山病院醫長新潟支會講師

醫學博士　澤田敬義君

婦人衛生雜誌第百九拾五號　（明治三十九年二月二十三日發行）

名家演壇

代乳と養育

醫學博士　瀬川昌耆君講話

▲乳母の乳汁　母親が癈乳すべき病氣に罹つた場合に哺乳兒を何うして保育したら宜からうか、即ち癈乳した跡の代乳法は如何なる方法を執つたらば宜からうかと云ふに先づ第一の良法は母乳に最も類似した乳汁を得るにあるので夫れには乳母をおいて其の乳汁を與へるのです、其の次ぎには牛乳で育てる事です、牛乳に次いでは牛乳を原料として製した品即ちコンデンスミルクとか牛乳粉の如きを以つて保育する方法で、此の牛乳や又は牛乳原料の製品で保育するのは之れを人工營養と云ひますが、癈乳せし場合に以上三ッの保育法中孰れが適當かと云へば申す迄もなく善良なる乳母の乳汁に限るのです

▲死亡の多き時代　併し適當なる乳母を捜すのは隨分困難なこと故、乳母を置かぬとすれば是非人工營養法なる牛乳か或は牛乳製品で養育しなければならぬのです、西洋でも乳母の乳汁でなければ其の代りに人工營養法を以て養育されて居るが之は何うしても人乳の養育には及ばないのみならず、健康なる發育を遂げしめるには種々の困難が生じて死亡の比例から見ても必ず牛乳や或は牛乳製品をもつて育てた哺乳兒に故障が多いのであります、一體現在の人の最とも多く死亡する數は初生第一年迄の間、即ち一年未滿の哺乳兒時代に多いのです、ソコで其の死亡する病氣は何が一番多いかと云ふに大部分は胃腸の疾患、夫れに次いで傳染病であります

▲恐るべき哺乳兒の胃腸病　胃腸の病氣は大人には多く有勝ちの病氣で、左程大人は恐ろしくも感じないから、哺乳兒の胃腸病も自然此樣習慣から謝う重く思はない親があるが、之は飛んだ心得違ひです、

哺乳兒の胃腸病は大人と趣きが違ひますから決して軽々しく思つてはなりません、デ哺乳兒に胃腸病の多きは全く營養の不完全なるので營養其宜しきを得ぬからであります、斯く營養不完全に陷り胃腸病に冒されし愛兒の斃れる其原因は何にあるかと云へば、實に人工營養法をもつて保育された哺乳兒に多いのであります、牛乳をもつて保育する場合や、牛乳製品をもつて母乳に代用する時は大に此の點に注意し、牛乳とか牛乳原料の製品を飲まして置けば故障なく育つことゝ考へて居ると遂には營養を害するに至り、取返しの付かぬ危險に陷ります、故に歐羅巴にても追々人工營養の方法を改善し講究して居るけれど、未だナカ／＼之れが多いのです、歐羅巴に比較して日本では胃腸病の哺乳兒が多いか少ないか次にお話し致しませう

人工營養と死亡

▲近頃乳汁の誤解多し　世間には乳汁の問題に對し大分誤解をして居る者がある、出産の當時母乳の分泌が惡いからと云つて、分泌させる方法も講ぜず、「迚も母乳は不足だから牛乳でゞも育てませう」と抛つて仕舞ふのみならず母乳と牛乳とは哺乳兒の營養上全く同等と認めて居るか、左もなくば牛乳の方が母乳以上と心得て居る人もあるやうだ、折角出べき母乳をもつて居ながら开んな誤解をして居る方があるのには困ります、何うか斯んな心得違ひのないやうにしたい、扨歐羅巴に於ける一年未滿の哺乳兒が死亡する其の統計を茲にお咄しさう、之れは百人に對する割合を示したのです

索遜	二六、二	墺太利	二三、九
普魯西	一九、八	以太利	一六、七
英吉利	一五、七	佛蘭西	一五、六
丁抹	一二、八	愛爾蘭	一〇、六
諾威	九、五		

先づ統計上斯ういふ比例を得たので是れは最近の調査にかゝるものであります

▲外國に於ける引證　此の比例を見ましても何うし

ても諸威は死亡數が尠ないが又索遜は何故斯く死亡數が多いのであらうかと云ふ疑問が起るでありませう、此點が即ちお咄し致して置く必要の眼目であります、元來諸威と云ふ國は牛乳とか又牛乳を原料にした製品をもつて保育する事は土地の習慣上尠ないのであります詰は人工營養を用ゐぬ國で母乳を以て多く養育致します殊に牛乳は最上等の品に富んで居て、不良の品は極く尠ないのです、デあるから哺乳兒の胃腸病に冒される事が尠ない、然るに索遜は多く人工營養法をもつて養育するから、其の結果は統計の上に顯はれ百に對する死亡兒が那のやうに澤山あるではありませんか

▲我國の習慣　歐羅巴に於ける一歳未滿の小兒が死亡する統計は良くお解りになつたでせう、然らば我が日本では之れに比べて何う云ふ統計を示して居やうかと云ふに

百に對する一四、三

である、シテ見ると歐羅巴諸國の統計と比較して佛蘭西と丁抹との間に位して居るので、一般の成績上から見ても善良なる結果を顯はして居るのです、言換へれば日本では牛乳や牛乳製品を用ゐる事が尠なく母乳をもつて養育する美しき習慣の存する故、從つて之れが哺乳兒の胃腸病を起さぬ原因となるので歐羅巴に比較すると、育兒上母乳の點は非難の聲が低いのであります

乳母の撰定

▲營養上の統計　今度は伯林に於て現在生存する小兒千人に付き生後一ヶ年間の養育法即ち母乳で育てるもあれば乳母の乳汁で育てるもある　母乳が不足のため牛乳を間へ交ぜて育てるもある　左もなくば牛乳一方か、人工の營養物で育てる哺乳兒の千人に對する毎月平均死亡の比例を統計表に作つてお咄し致さう

	一千八百八十五年に於ける一ヶ月死亡率	一千八百九十五年に於る一ヶ月の死亡率
母乳	七、六	六、二五
乳母の乳汁	七、四	六、三二

人乳及牛乳	二三、六	四〇、九六
牛　　乳	四五、八	三八、七四
人工營養物	七四、八	九二、二四

此表に據つても母乳が哺乳兒の營養に尤も適當し、次ぎに乳母の乳汁と云ふやうな次第で、何ういふものて養ふのが保育に必要なるかを容易く知ることが出來ませう、統計表の比較を見ると一千八百八十五年と一千八百九十五年とは大分違つて居るところがあるが時の場合によつては少し位の相違を來すのは免れぬことである

▲乳母撰定の標準　母乳の全然不足を告ぐる場合、又は母乳を以て保育することの出來ぬ場合には乳母を置くことが最も適當です、處て乳母の選定法に就ての注意ですが選定を醫師に托し、充分に乳母の身體檢査をすれば夫れに越したことはないが、先づ素人の選定すべき標準を心得置くことは尤も大切なことゝ信じます、扨其の標準とすべきは第一に無病健全です乳母として雇ふべき當人が丈夫てなければならぬ第二に乳汁の分泌が多量で其上に乳房や乳首の形ちが完全で哺乳兒の口へ含むに適當して居るのです、第三が品行方正なるもの第四が性質の沈鬱性でなき快活の人物、斯ういふ資格を備へて居るならば必ず善良の乳母として採用するに可なるものであります

▲乳母の適不適　乳汁の良否は前に述べた通りの鑑定法て宜しいが尙念の爲めに醫師に檢査して貰ふのも決して惡いことではあるまい、併し此處に注意いたして置くのは産後一年以上經過した乳母は哺乳兒のために宜ろしくない、斯ういふものは選定する資格の消滅するものです、産後四五十日を經過したものゝ中から選定するのが尤も適當なことゝ心得て貰ひたい、初産婦でも次産婦でも斯んな心配は全く無用に屬することであります、總て乳母が哺乳兒に適するか適せざるかを見るには哺乳兒の目方を量つて見るのが第一番に肝腎です目方が增加さへすれば適當した乳汁と安心いたすが宜ろしい

乳母の攝生

▲乳母の授乳注意　乳母が小兒に乳汁を授ける前には未だ〳〵注意せねばならぬことがある、其の乳母は出産後幾日位經つたものか、又小兒は生後何ヶ月位過ぎたものか夫れを考へなければなりません、小兒は既に生後一二ヶ月も經つて居るに出産後間もない乳母の乳汁を與へたら必ず小兒の身體に障害を與へる詰り出産當時の乳汁は下劑作用を以つて居るから授乳した小兒は下痢する事があるのです、然らざれば初生兒時代の兒に出産後五六十日過ぎた乳母の乳汁を與へる場合もあらうが、斯ういふ時には乳母の乳汁が濃過ぎる故、必ず分量を控へるやうに仕なければならぬ、尤も小兒が初生の時代を越せば差支へないのです、以上の如き授乳の注意は餘り手近な事で却つて氣に留める人の少きは誠に慨はしき次第ではありませんか

▲乳母の生活狀態　乳母の攝生は實に小兒保育の爲め大切なことです、併し是れは前に母親の攝生法に於て述べた通り夫れと決して相違いたしませんけれど、是非乳母が特殊の攝生法として心懸けねばならぬ事があります、夫は生活狀態の變化です、生活の狀態が俄に變ると乳汁の分泌に變化を迨ぼすので、例へば田舍で是迄勞働して居た乳母が、東京の資産家へ賴まれた場合の如き、生活の狀態は俄に變化するではありませんか、粗食を食し、働いて居つたのに、急に食物が改まり旨い滋養物を澤山與へられると、乳母は平生食べ慣れた食物よりも美味いので、ツイ食過るやうな事になる、殊には賴んだ家の親は情として乳汁の分泌量が細くならぬ樣にと良き上にも尚良き食物を奬るは誰しも同じ心でありませうが、夫は乳母の生活狀態に急變を與へて至極宜しくないのです、則ち乳汁は却つて夫が爲め濃厚になりすぎ分泌量が過多になつて小兒の爲めには飛んだ惡い影響を及ぼすのです、尚其上に此の乳母が運動でも怠つたら益々乳汁を惡くして仕舞ふ、故に今お咄しする樣な乳母を賴んだら、矢張り田舍に居た生活

状態にして置くはうが、却つて善良なる乳汁を得られるのであります、小兒が可愛い餘りに乳母に美味い物を與へすぎ、樂にさせて置くことは必ず惡い結果を來すから呉々も斯ういふ事の無い樣に御注意を願ひます

▲獸乳　是れ迄お咄し致したので母乳に次いて乳母の乳汁と云ふ事はお判りになつたでせう、併し乳母の乳汁を得られなければ勢ひ獸乳によらなければならぬ、牛乳を代用するのは即ち夫れが爲めであるが、獸乳の中では牛の乳が一番人乳に近いのでせうか次ぎに説明致しませう

●牛乳と保育

▲馬乳　獸肉の中で何んの乳汁が一番人乳に近いかと云ふに、分析上の結果として馬乳を推さなければなりません、次ぎが牛乳、牛乳に續いて山羊の乳汁であります、シテ見ると人工營養法をもつて保育するには馬乳を採用しなければならぬ譯です、處が馬乳は乳汁の上に於てこそ牛乳に優るが、實際は尠う出來ない、此故に馬乳は一般の保育者に向つて供給する事が出來ない、して見ると夫れは出來ない相談です

▲乳汁成分の説明表　馬乳は一番人乳に近いけれど汎く一般に得られないから、馬乳に次ぐ處の牛乳を用ゐなければならないのです、デ人乳と牛乳と又はコンデンスミルク即ち煉乳の如き牛乳製品とは成分の上に於て何の位相違あるものであらうか、此の三種を比較せる重なる成分を左に示しますこれは乳百分中に含まれをる各成分の比例です篤と御覽下さる樣願ひたい

	人乳	牛乳	煉乳
蛋白質	一、〇	三、〇	一〇、〇
脂肪質	四、〇乃至五、〇	三、〇乃至四、〇	一一、〇
糖分質（乳糖）	七、〇	四、〇	乳糖蔗糖五二、〇
鹽分質	〇、二	〇、七	二、〇
外に水分	若干	若干	若干

凡て小兒を養育するには人乳が最も夫れに適して居る、又牛を育てるには牛乳が最も適して居る事は云迄もなき事である、處で此表に掲げたる通り小兒を保育するには人乳の成分をもつて仕なければ完全に發育は出來ない、ケレども母乳や母乳の乳汁の如き人乳を得られぬ場合には、勢ひ牛乳を以て養育しなければならぬが、爾うするには牛乳を何うして飲ませから宜いでせう

▲乳汁の重なる成分　扨夫れには牛乳中に含まれをる成分の比例を成るべく人乳に近ける方法を取らねばならない、其方法と云ふのは牛乳を表に掲げた人乳と成分の比例上略々同等にするのです、ソコで一寸御注意して置くのは此の成分中で消化に關係のある主なるものは何んであるかといふことです、其の主成分は則ち蛋白質です牛乳が人乳よりも消化がよくないといふのも必竟この蛋白質が多いからです、それゆゑ牛乳を小兒に飲ませる時は蛋白質を人乳の蛋白質の分量に近づけなければなりません、表を良く御覧なさい牛乳は蛋白質に於て人乳と比べて三倍濃厚ではありませんか

▲牛乳を人乳に似せる法　夫れ故牛乳を人乳に近づけるには牛乳へ三倍丈の水を注し量を增して稀薄にしなければならないのです左すれば蛋白質は夫れで人乳の成分と同等になるが、其代り糖分質は稀薄の上にも稀薄になつて仕舞ふ、依つて之れを補ふには少量の砂糖を加へれば之れも人乳に近づける事が出來ます、次に脂肪質ですがこれも非常に稀薄になりますが通常はそのまゝてさしつかえがないのです西洋では近來これは乳酪を加へて脂肪の量を增すやうにすることもしますが之れは實驗上餘り必要がありませんから之れは先づ稀薄にした儘で宜しい是れて先づ牛乳が人乳に近よりましたので小兒に與えて差支へなき成分になつたのです

牛乳と保育

▲成分中の性質が違ふ　人乳と牛乳とは各成分の分量に於て相違あるとは前に述べた通りてあります、

人乳の方が保育上牛乳より何れ丈尊いかは此の一事をもつてもお解りにならう、處がまだ〳〵夫れ處では無い、成分中の性質も違ふし、大切なる消化の状態も人乳と牛乳とは餘程相違があるのです、成分中の性質が違ふ一例をお咄しすれば同じ鹽分質でも人乳の鹽分は牛乳より鐵分を含むこと三倍も多いのです斯ういふ鹽梅ですから唯に成分の分量のみ同じなら夫れて可いと云ふ譯には參りません

▲牛乳と混合物　尚直接營養の關係は少なくとも人乳と牛乳とは其含有物に大變な違ひのあることも心得て置かなければなりません、人乳を小兒に飲ませる時は乳首から小兒の口へ直接に觸るものだから乳汁へ外物の混合る危險はないてせう、然るに牛乳は爾うてない、搾取つてから種々の器物へ移しかへられる其の間には隨つて混合物が澤山ある、黴菌や塵芥は其の重なる混合物で斯ういふものが混るのみても牛乳は遙か人乳に劣るてはありませんか

▲牛乳は黴菌の良培養基　黴菌の中には無數の種類があるが其の内には病源をなす處の黴菌もあれば非病的黴菌もあるのです、病源をなす黴菌の中でも窒扶斯、赤痢、結核の如きは尤も恐るべき事は誰人も御承知であらうが、斯ういふ病源の黴菌は牛乳の營養分をとつて繁殖することは實に夥多しいものであります、丁度牛乳は是等の黴菌の良培養基てすから斯る黴菌の混合して居る牛乳を飲んだら夫れこそ大變忽ち小兒に傳染する一大不幸を招かなければなりません

▲消化の状態が違う　次ぎに消化の状態が異なる點を述べませう、總て人乳でも牛乳でも胃腑へ嚥下すると先づ一度は凝結するので爾うして後に消化することになる、處で人乳は其の凝結の仕方が細かくなるが牛乳は趣きが違つて大きく凝結する、夫れ故双方消化の良否を比較して見たら細かく凝結つた人乳は消化し易いけれども大凝結になつた牛乳は人乳と比較して消化が惡いのです、シテ見ると營養の價値に於て牛乳は人乳の上に立つことは無論出來ないの

てあります

▲一種固有の神秘力　まだ〳〵夫ればかりではない化學の力を以て精細に確め得るとの出來ない一種の神秘力がある、人乳には人乳固有の神秘力があつて乳汁の成分や性質以外に小兒を保育する微妙の力を有つて居る、牛乳も其通り牛を育てる上には一種固有の神秘力があるので、人には人乳が適合するし牛には牛乳が適合するのである、斯る固有の神秘力があるにも係らず、牛乳を人乳に代用するは保養上不適當なるは云ふ迄も無きことでありませう

▲動物に試驗せる實例　嘗て牛乳を分析し、其の各成分で化學上牛乳と同一のものを作り或動物（モルモット）に試驗したることがある、モルモットの子は普通の牛乳でよく育つのであるが、此の化學混合物の牛乳を與へて完全に發育したかと云ふに大いに反對の結果を顯はし、日に増し衰弱の度を高め、遂には斃るゝに至つたやうな次第であります、之れを見ても人乳でも牛乳でも單純なる化學混合物ではない、即ち死物ではない、活物であるので其の内に一種の神秘力を有して居ることがお解りになつたのでありませう、夫に付けても牛乳に就て素人や醫師の誤解されてる説があります（つゞく）

寄書

●馬と衛生

越後三條病院長　醫學士　竹中成憲君寄送

明治三十九年は午の年である馬に就て何か物せよとの注文で、すこし御話をいたします、先づ

▲馬に乗る事　は運動上良しき事です私は紳士の運動法として此上のものはないと思ひます、馬を飼うには金がかゝる故に貧乏人には六ケ敷いが金があるなら先づ馬を買うべしてす「乗馬飼養令」といふは

明治十七年の太政官第六十五號の布達で俸給百圓以上のものには少くも一頭を飼はしたものです

運動法は色々ありますが頭が禿げてから一二の體操も出來ず、自轉車の稽古もイヤだし、迂詐はついても米を搗くのは難儀だし、ローンテニスも相手がなくては出來ず、孫と鬼ゴッコも毎日は出來ず、ツマリ馬です第一馬は決して贅澤品でない、車で用を足す所を馬で足せば早くて運動になつて宜しい、奉公人を使にやるにも之に乘せてやれば早くてラクで喜こぶ、特に馬糞がとれて米を作るには肥料として持て來いだ

醫者を呼ぶには行に使が乘て歸りに醫者が乘る只困るのは冬期の雪です、北海道では雪が降ても馬を使ひます、これは雪が内地と異つて寒氣の加減でバサ〳〵して鹽のやうであるから馬が踏めるのでありませう内地の雪は綿のやうです

然し事實に於て年々内地の雪も減じますから馬を使用する期間が長くなりました外國の雪國では御承知の通り馬が馬車のやうに馬橇を曳くので我北海道と同一です

落馬は隨分險呑で頼朝も落馬で薨ぜられたと申します、然し馬には妙な癖がありまして騎手が落ちましても其人を其馬は勿論、共に走りつゝある他の馬も滅多に踏まぬものです

落馬の事を越後の南魚沼地方では「馬くだり」といひます「馬から落た」といふよりも「馬くだりをしました」といふと立派な樣です、同地方に私が居た時、丁度夏の事で病人が來まして肩をぬいで「先日馬くだりをしまして此所がやめてならぬ」といつて腰の邊を見せやうとするから私は「マー横になりなさい」といひました、其譯は「馬くだり」とは矢張「腹下り」即ち腸カタルの方言だと思ひましたから腹をみる考へてありました遂に落馬と分つて哄笑一番さ

馬も舞ふ事があると見へて

▲舞馬の災　といふ事があります火災の事ですな晉書の藝術傳に

黄平問索紈曰我昨夜夢舍中馬舞數十人向馬拍手
此何祥也
紈曰馬者火也舞爲火起向馬拍手救火人也平未歸
而火起

▲馬肉は實用となります上手に煑れば牛肉と識別できぬ位てす就中カテレッにすると分りません然し其差として人は色々な事を申ます

一　特別な香(臭氣)がある(一說に鴨の如し又胡麻をいりたるが如し)

一　煑るとき汁の中に泡が出來る

日本ては所謂穢多の外從來肉食を避る氣味がありましたが信濃ては昔より馬肉を喰たと申ます戰時に之を喰たのは何れの戰爭にもある事て馬どころか人肉まて食します

西洋の肉食は盛なもので一人一日に配算しました屠肉量は左の通てす(四瓦が約日本の一匁)

ロンドン市民	二七四瓦
パリー市民	二三〇瓦
ニユーヨーク市民	二二六瓦
ベルリン市民	一三五瓦

英國人が一番多く肉を喰ます我國の東京市民は明治十一年より十三年に渉る屠牛數より算出しますと一人一日僅に一瓦强に當ておりますが今は少し增しましたらう

肉といふと先づ牛てすけれども肉類の成分の差は多く脂(あぶら)の多少に依るので脂を除きて比らべますと諸動物の肉は大に相似たりてす試みに分拆表を見ますと(乾物百分比例)

牛	二一乃至二二
豚	二一同二三
羊	二一
馬	二三乃至二五

日本て馬肉を食用に販賣する事を許しましたのは明治二十年頃からてす

本草綱目に馬「肉以純白牡馬者爲良」とあるが毒があるかの如く書てあるは誤てす

無門關に『羊頭を懸けて狗肉を賣る』といふ事があり

ますが之と『牛首を懸けて馬肉を賣る』といふのは意味が異いますけれども兎に角牛首を懸けて馬肉を賣てはならぬのに牛首を懸て馬肉を賣る輩がないとも限らぬイヤ實に或所で「午肉」といふ看板を出して牛肉でなく午肉を賣たものがあるといふ事ですソコデ衛生警察上大抵牛肉を賣るものには馬肉を賣らせぬ又馬肉を賣るものには牛肉を賣らせぬ樣にしてあります

▲馬乳　女馬即ち牝馬を獨逸語では「スッーテー」といひますが其乳を人間が飲んでもよろしい驢馬の乳は殊に人間の乳に成分が似て居ります

日本で古代には「酥」(又「蘇」)といふものを用ゐました酥とは康熙字典に據りますと

酪屬牛羊乳爲之牛酥差勝造法乳入釜煎二三沸傾入盆内冷定待面結皮取皮再煎油出去滓入鍋内即成酥油北方名馬思哥

とありますが牛乳は孝徳天皇之を御用ゐになりましたが汎く民間に行はるゝは維新此方です

山羊の乳は此頃用ゆる人があります却々よろしい馬の乳だつて馬鹿にならぬもので分析表で見ますと

千分中	水	固形物	バタ	乾酪蛋白
人乳	八八九	一一〇	二六	三九
牛乳	八九七	一四二	四三	五三
山羊乳	八六三	一三六	四三	四五
羊乳	八三九	一六〇	五八	五三
驢馬乳	九一〇	八九	一二	、二〇
馬乳	八二八	一七一	六八	一六

こうなつております

本草綱目馬乳の部に(時珍曰)漢の時馬乳を以て酒を造爲し桐馬の官を置く桐揺にして成るを謂ふ也とあります又無毒にして渇を止め熱を治すともあります

▲馬の病　が人間に傳染する事があります獨逸語の「ロッツ」といふ病、英語では「グランダース」雑典語では「マルレウス」又「馬」といふ字を「エクイヌス」といひますから本病を「エクイニア」ともいひます日本語では「馬鼻疽」

此病は馬、驢、騾等を侵す所の病で彼等には空氣に

依て傳染します人に傳りますときは皮膚の創から人るのです原因はレフレル、シユワツといふ二人の學者が今より二十四年前に發見しました一種のバクテリア(虫)にて鼻汁の中や膿の中に居ます乾ても却々死にませぬ故厩の器具類に病毒の附て居る事があります

傳染してから三日乃至二十日、時としては數月經ちまして身體に顆粒腫を作り其腫物は破れまして膿を醸すのです

人間にも急性に來る事がありますが大抵慢性てす

此病の事を書きましたのは西暦第四世紀てコンスタンチン大帝の獸醫のアシルツスといふ人てありました十五世紀になりましては梅毒と混同され又結核とも間違へられました

人身に本病の來る事を初めて書きましたのはローリンいふ醫者で今より百年ばかり前の事てす然れども此病の眞相を發見したのは先年死なれました獨逸のウキルヒヨ氏て五十年許り前の事てす(完末)

◉學校衛生に付偶感

(山井景廸氏の横死を惜みて)

學士　竹中成憲君

聞くれば昨年十二月廿五日新潟高等女學校教諭山井景廸氏は十歳なる兒童の誤て爆發せしめたる銃彈のため下脚を射撃され出血の爲め春秋僅か三十五歳を以て閨秀愛兒合して九名を此世に殘し遊獵先に於て長逝せり當時此記事を一讀せる者は抑も如何なる感動を起したる?

死因は出血なり出血を二時間止め得たらむには醫師來着の間に合ひ玉の緒を繋ぎ得たる事明なり

出血には素人の止め得べきものと專門者も止め得べからざるものとあり素人にして止め得べき出血のため人命を絕つは慘もまた甚しく天與を無視するものと謂はざるべからず

氏の負傷は下脚にあらずや大腿(股)を帶、手拭、網銃の革、ズボン釣り、褌、何なりとも有合したるも

のに一縛り之に小桿を通し小桿を捻轉したらむには止血したるに相違なし斯くする時は結縛したる下部は恐らく紫色となりたるならん紫色何の恐るべき斯くして一日は愚、三日を待つも可也醫師到るも是以上の應急法なき也、斯の如くにして氏を戸板に載せ數里を病院所在地まで否新潟まで送る事を得る也
傍にありし人々は成程周章狼狽したるに相違なし本人は如何、悠々として語り加之絕筆三則を認め得たるの常識と餘地のありたるにあらずや傍人に衞生思想なかりしは咎むべからず苟も敎師として此位の救急法を識らずして可ならんや實に惜しみても尙餘あり紫色以下の壞部は運搬の後、一刀の下に切斷すれば可也跛脚以て敎鞭を執る敢て不可なきなり
聞く氏は常時百方止血に勉めたりと素より自衞の本能より斯くありしは勿論なるべけれども運動、獵狩の衞生に良しきを知ると同時に衞生なるものゝ範圍を今少しく大にし素人にして救ひ得べき的身體の異常は醫を俟たずして之を行ふも亦其範圍に在るを知らざりしにあらざるか

之に就思ひ起すは左の注意と希望となり

（一）教育者は兎角衞生を輕視する事

論賞に當り先、材料となるものは學術にして品行之に次ぐ體格は殆んど眼中になし、
然るに入學試驗を行ふに當ては如何體格を先にし之に落第する者は假令學術優等の見込あるも採用に至らざるにあらずや初は衞生の重大なるを知りながら後には之を忘れて近眼、神經衰弱、肺結核を製造しつゝあり矛盾も亦甚しからずや多額の國庫金を支出して特待生を留學せしむるは可なりといへども其結果如何、學績優等なるものは身體必ず薄弱なり茲を以て業成るも身に結核を有し歸來、業績の舉るなく甚しきは骨を異國に遺すもの尠からず優等なる薄弱者を洋行せしむるよりも寧劣等なる強壯者に金を注入するを可とす
大學卒業者より成る學士會の名簿を案ずるに明治二十一年來死者實に三百卅八名、而して死因の大多數

は『肺結核』なり中には卒業せし年に死せるもあり

(二)平時「校醫」なるものゝ性質を誤解しある事

學校に怪我人あり校醫を呼ぶべし職員家庭に患者あり校醫を聘すべし是普通行はれつゝある現況也、根本より誤れり矣、校醫は兒童の健康を視察監督するの職にして疾病を治療する者にあらざる也トラホームの治療を校醫に命ずるは誤れり、校醫は或眼科醫が如何にトラホームを治療しつゝあるやを監視する也、否トラホームを未發に防ぐ者也

此誤解あるが爲めに醫師の或る者は苞苴以て校醫の地位を得むとし職員亦校醫を視る事「出入醫者」の如し一方に於てトラホーム其他疾病の發生なき事を祈り一方に於ては患者の多數を希望する如き奇觀なしとせず

「因に記す」學校に於て兒童のトラホームを治療するは策の至たきものといふべからず彼等は相互間に感染しつゝあるにあらずして家庭より持ち來るなり家庭に於てトラホームある母と手拭を共用するものなり家庭を見廻りて此邊の注意を加へ先づ家庭年長者のトラホームを撲滅するにあらずむば敵在本能寺的の空策たるのみ

(三)救急法を教員は勿論生徒に課程として教ゆべき事

救急法の大略を了知する事は難きにあらず一部(三十錢程度)の小冊子にして十分之を盡したる者あり教員は之を熟讀し校醫と圖り實地を假裝して之を生徒に示すべし校醫をして之を爲さしむるも可なり之に據て生徒相互間又は教員の生徒を救ふ事あるべきは勿論なり

(四)世人多くは醫を聘する事を知て醫の許に到る事を知らざる事

疾病、急變に當り世人多くは醫を呼び來る事を先づ思ふなり少しく金あるものは就中然り愛兒「くさめ」一發、直ちに誰さんを呼べと言ひ呼ぶは行よりも時間を要するものたるを知らざるなり、

同君にして身を戸板に載せしめ醫の許に運搬せしめたらむには吉田、三條何れに到るも易きなり氏は負傷後醫を待つ事二時間半なりしといふにあらずや二時間半を有すれば人肩に擔て徐々に運ばるゝも三里を行くべし

是を思ひ彼を察すれば氏の死は之を惜むべきは勿論なるも之が爲めに全國多數の教育者に大なる注意を喚起したるなるべく之を手本として後世幾多の生命を救ふ事あるべし氏亦瞑して可也涙を硯池に滴下して之を記す

「參照」當時の新聞記事左の如し

◉山井教諭銃殺さる

縣立新潟高等女學校教諭奏任待遇山井景建氏(五十三)は同校の標本となすべき鳥類を捕獲せんため去二十三日(三八年十二月)西蒲原郡へ赴き道上村大字道上の狩猟者五十嵐八郎たるものを訪ね同家へ宿泊し同夜狩猟に出て二十五日午前十時頃同家へ歸り八郎の宅前なる木陰に八郎及狩猟案内者なる磯吉等を打集ひ雜談中八郎所持の猟銃が傍に倒しありしを八郎の次男鐵造(十三)が之を片付けんとする際之に實彈の込めあるを知らず引金を引きしかば忽ち發彈し散彈は山井教諭の右脚部中央後部より貫通骨を挫折したれば山井教諭はアッと云ひ様打倒れしにぞ居合はす人々大に驚き直ちに醫師杉山良平氏を呼びにやりたるも二時間經て漸く來り應急の手當てを加へしも其時までに早や出血夥しく約二十分を經て遂に絶命したる由氣の毒の至りなり

◉新潟高女教諭變死

縣立新潟高等女學校教諭として篤學謹厚の聞えありたる山井景建氏は去廿五日(三八年十二月)西蒲原郡道上村に於て傷ましくも不慮の死を遂げしとは前號に報せしが尚ほ漏れたるを記さんに氏は遭難より死に至る間頗る氣丈なりし由にて右の重傷を負ひ乍ら遺書三通を認めたるといへり

右變事の報あるや高等女學校教員細野良平氏山井氏の長男景理氏(十六)と共に同地に急行して遺骸を引取

り二十六日午後十時頃歸港したり、氏の遺族は夫人及び前記の長子景理氏の外に男女の子七人あり夫人は三十五六歳にして出産後幾許もなければ産後の肥立ち未だ宜からず景理氏は新潟中學に通學し居りたるなりといふ尚ほ氏の實兄は目下東京に在り此急報に接し一昨夜終列車にて來港したる由氏の本籍は東京に在れど元と京都府の士族にして新潟高女に來任せるは同校創立當初よりにして其專攻せる國語科の外に二三の課目を擔任し一見溫順に過ぐるが如きも實は稀に見る嚴格家にして生徒等の氏を畏敬すること他の教師に越えたれど教授に熱心にして在任日久しかりしより自然一校の信望を其一身に集めたる觀あり訃報一たび傳はるや全校生徒流石に少女心の涙にもろく氏が在りし世の面影を追想して嗚咽涕泣見るも可憐らしきばかりなりといふ、氏が專攻の學問中最も得意なりしは文法にして其研究には分けて熱心なりし由氏は又珍らしき多能にして音樂に妙を得たるは多く人の知る所なるが圍碁、弓術、球戲等にも拙なからざりき』(完)



●神經衰弱豫防法

狩野病院長　狩野謙吉氏談拔萃

▲神經疲勞の自覺　精神の疲勞は永い時間を費して徐々にやつて來る代りに疲勞を回復するにも又永い時間を費さねばならぬ、力業の疲勞は早く來て短い時間て回復します、よしんばそれを(力業)八九時間續けても一寸湯にでも入るとか一睡り睡るとかすると直に回復して又元の通り元氣な身體になります、斯樣に力業は回復するのが早いが然し我慢がきかない、精神勞役の方は疲勞が徐々に來る代り我慢がきく我慢がきけば自然心を使ふのが餘計になるから知

らず〳〵度を過して仕舞ふのは恰度おいしい物をうまいと思ひ遂に飲み過ぎたり食ひ過ぎたりすると同じ事であります一體力業で筋肉の疲勞するのは筋肉に遊離燐酸と云ふものが生ずる爲であるからそれを取て仕舞ひば疲勞がなほる譯であります、それには筋肉中の血管に食鹽水を注入して疲勞產物たる其遊離燐酸を洗ひ流せばよろしい、農民が食事の際に是非鹽からい副食物がなくてならぬのは皆さん御存じて御座いましやう、是は以上の道理に依るので御座います。

生理上の試驗によりますると精神（卽ち腦神經）は休息して居る時は中性又はアルカリ性で使用して居る時は酸性となります、して見ると疲勞した時は筋肉疲勞と同じ樣に疲勞產物が起る事は明かであります、夫であるから思慮するとか讀書するとか作文するとか或は又計算するとかを少し永く續けた場合には一種變な事が起つて來る事があります、それは大槪は氣が付かない、其變な事とは

（一）自分の身體の上の方に何となく變な感じがして來る、

（二）さうして居る中に自分には腦があると云ふ事を獨りで氣が付く、

（三）其氣が付た時は腦神經が疲勞し始めた時てある

試みに考へて御覽なさい、身體に障りのない丈夫な人は誰にした所で讀書するにも工夫するにも自分で自分のどこが働いて居るかと注意する人はない、飲食するにもどこへどうしてどう云ふ樣に飲食物を運んで居るかと考へる人はない、自分の腦がある自分の胃があると云ふ事を考へ付た時は腦に空所がなくなつた時か胃が一杯に充滿した時卽ち障りが起つた時なのです、近き例を擧げますると冬は三四枚の綿入を重ねて居ましても別に何とも思はないが一陽來復、春になつて參りますと夫れが重くて苦しくてなりません、それと同じ樣なもので自分て自分の腦に氣が付た時は精神が疲勞して來た時なのであります

から云ふ時は何やめても休息するのが一番であります、休息はせずに更に一と元氣付けて精神を使ふと成程再び腦のあることを忘れて仕事される事は股に錐をさしたり梁に繩をかけたりして勉强した古人もあるので解りますけれども然し斯くまで無理をして神經をいぢめて興奮させると遂には神經は疲勞を通り越して衰弱し果は興奮性を減少せしめて仕舞ひます古人が再三すれば濫すと申しましたのはこゝで御座います。

▲精神疲勞の他覺　精神の勞役を外より覺るのゝ六ケしい事は前に述ました通りで御座いますが勞役した餘り疲勞を起した場合にどれ程疲勞して居るか疲勞の度合を測る機械があります、其は色々ありますが兎に角電氣仕掛にて皮膚の知覺を檢査して推し測るのであります、此機械で測るのは確實には相違ないのですけれども睡眠不足の爲疲勞した時は何ミリメートル、何時間數學をやつて疲勞した時は何ミリメートルと云ふ樣に疲勞の度合を測るのであるが何分檢溫器で一寸體溫を計る樣に輕便にいかないので聊か不便で御座います、そこで機械は機械として其外に何ぞ一寸した方法で精神疲勞の度合を計る方法があると誠に好都合で御座います、一體心理學から云ふと動作の輕燥過激なのは精神痴鈍に伴ふ兆候であるとか坐作進退が安靜を缺いて居ると精神も亦安靜を缺くとか愉快な時は笑ふとか不愉快な時は顏面筋が働いて皺がよるとか夫れ〳〵或る定まつた表示があるもので御座いますから精神疲勞にも何か心理的表示がある譯でありますけれども扨て此表示なるものは人力で幾分か抑へる事が出來る、天眞爛熳な子供でさへ褒められたさに面白くない事があつても我慢をして表示を抑へて居る樣なものでありますから大人ならば猶更抑へられる道理であります、して見ますると此心理的表示を其儘に取上て立派なメートルとする事が出來ない、そこで心理的表示の外、何か別の事で精神疲勞の度合を測らねばならぬ、是に就て一つ私の研究が御座います、先に申上まし

た通り自分に腦のある事を氣が付いた時は精神が疲勞した時てありますが私の研究とは夫を標準とするのてあります、此標準から割出して其人の精神疲勞の度合を測るのてあります、夫はどう云ふ事かと云ふに

手掌て頭をなてるとか、指を額に當てるとか女ならば顳顬部を摩るとか云ふ樣事を何度も繰返すのは是れ精神疲勞の第一度

夫れより一歩進めば

頭を左右に振るとか、手て頭を抑へるとか、指て顳顬部を押付けるとか云ふ樣になります、かうなると其人の上眼瞼が緩みて下に垂る傾きを現はし强て口唇を収縮しやうとする是れ精神疲勞の第二度、

更に進んて頭重を感ずると

頭を拳手て輕く叩くか、張合のない聲て欠伸をして頻りに眼瞼を摩るのが常て甚だしいのは睡氣を催します、是れ精神疲勞の第三度、

要するに心理的表示は通例顏面筋の弛張に現はるゝものてあるから能く顏面筋に注意しそれと同時に手の行先きに御注意なさい此手足の運動と云ふものは大腦の命令を現はしたものであります、蛙などを見ますと大腦が切り取られても何か物が觸ればそれを取除け樣とするものであります、人も大腦が一生懸命になつて讀んだり考へたり働いたりして居ても何か變つた樣な感じがすると手はすぐ何か變な物が來たわいと云はぬ許りに大腦の或る場所に觸つて見たくなるものて熱心に讀書しながら頭蓋を叩いて居る人があるのは皆さん能く見る事でありましやう。

▲精神過度の休息　神經の過度に使つてわるい事は前に申上た通りてありますから是非養生をする樣になさるがよろしい、神經の養生と申すのは何分神經を使はぬ樣にするのてあります、使はぬ樣にと云ふて丸きり使ふなと云ふのてはありません、丸きり使ふなと云ふのはつまり一生何もせずに居れと云ふ道理になりますが左樣な譯てはなく唯過度に使はぬ樣

になさいと云ふのであります、若神經を使はずそれきり休ませて許置いたら夫こそ大變、次第に其働きが減じて行く末は遂に無神經同樣になりまして早此世も終て御座います。

一體、人の性は活動を好むもので御座ります、子供が一日遊び廻つて許り居るのも其爲めで是は子供に取りては何より大事な作業なので是非斯くせねばならないのです、それ〴〵ありますから子供が遊ばないて大人しく許りして居るのは褒めた事ではなく必ず精神なり身體なりに異狀がある證據に相違ないから子供を持つてる人は斯樣な場合には能く御注意なさい、誰れかの狂歌に「忙しいと小言を云へど日々にしよさいなき身のいと辛さかな」とありましたが誠に其通りで御座いまして何でも人間は忙しいに限ります、世間には何だと云ふ事なしに唯ばかり居て逸樂に流れてる不精怠惰な人が隨分ありますが斯樣な人はなか〳〵精を出して働く事が六かしい、それと云ふのは神經を餘り永く（即ち過度に）休ました爲め働きが鈍くなつて精神及び身體に倦厭の習慣が附て仕舞つたので御座います、先には名譽の神經衰弱の例を申上ましたが是は其反對で不名譽の神經衰弱で御座います。

此不精を其儘ほつて置いてなほさなかつたならば遂には腦神經の痿痺となつて白痴同樣になります。一體世の中には進化と退化とあるもので使へば使ふ程それが進むし使はないと使はぬ程それが退きます、近い例を申上ますと通例どなたでも右の手は器用で左の手は不器用であります、是と云ふのは一つは遺傳に依りますけれども其重なる原因は右の方は始終使つて夫が圓熟して習慣となつたのであります、左の手でも始終使つたならば右の手の樣に十分働けます、萬事其通りで神經とても丸きり休ませて置いたならば働きがなくなる、動物で試驗して見ましても犬や兎の眼瞼をスッカリ縫て其儘にして置いて永い月日がたつた後で其縫を解いてやる、すると眼球に故障がないにしても視神經がきかなくなつて物が見

えない、又米國の或眞ッ暗な洞穴の水に住んで居る魚には眼瞼の痕跡がある許り眼がないと云ふことでありますが是は全く日光が當らぬ爲眼の必要がないところよりして退化したものと斷定される、是等より考へても神經過度の休息は却て害ある許りである事が分りましやう、そこで不精怠惰（即ち神經過度の休息）は是非なほさなければなりません、是の不精怠惰は多くは神經衰弱から來て居ります、神經衰弱から來た不精怠惰ならば十分なほされます、又不良の教育とか不良の習慣とかゝら來た不精怠惰であるならば

（一）勉めて同年輩の者と交際させ（二）起臥の時間を定め（三）口腹を充さず酒類を飮まさず（四）暖衣を廢して十分運動を爲させる

と云ふ樣にすると左迄面倒てなく治ります

去七日「精神疲勞の他覚」の條に大脈とあるのは大腦の誤に付き訂正す

▲精神勞役の急激、混雜　今人が斬られたとか怪我したとか云ふ場合にそれを見た人は忽ち身慄ひしたり氣絶したりする又火事などに戸迷ひしたり狼狽したりする例はよくある事で御座います、是は一時神經が働きを失ふからなのであります、然らばどう云ふ譯て働きを失ふかと云ふにそれ〳〵順序があつて働くべき神經が急に一時に働かねばならない爲混雜して仕舞ふのであります一體神經の働きと云ふものは非常に早いものにて僅か一秒間ですら實に驚くべき働きをするものであるが斬られたとか火事だとか云ふ場合には其事物が餘り急に餘り混雜して居るから神經に受くる刺戟がヒドい爲神經の働き力に餘つて仕舞つて順序も何もなくなつて働きを失ふので御座います、斯樣な俄な出來事は何とも致方がないとして日常神經を使ふには何分急激、混雜を避ける樣に注意しなければならぬ、周章れば周章る程、混雜すればする程忙はしくて仕事が捗取らず同じ事を何度も繰返したりします、是では神經の疲れがひどくて衰弱するから急激な事があつても混雜の場合にて

も何分落着いて心を亂さぬ樣にせねばなりません、一寸此處て神經が事物に感じて働く順序を生理學から御話致しませう、一體腦と云ふものは外なら刺戟が來たとて直にそれに應ずるものではなくて應ずる迄には幾らか間があるもので之を反應時間と申します、今此反應時間には

(一)認知時間、(二)辨識時間、(三)意趣時間、(四)神經と神經との間を傳達する時間、(五)運動神經、內の傳達時間

の五つの順序があります、即ち

(一)事物の刺戟が腦に入る迄の時間、

(二)其刺戟に注意して是は何であるかと見分る迄の時間、

(三)は刺戟する事物に對してどうすると云ふ事をきめる迄の時間、

(四)はきめた心を外に表はすべき役目を持ち居る神經の役所〳〵を通る時間、

(五)はきめた心を役所から外に傳へる即ち配達する時間、

斯樣に定まつて居るのでありますが其見るもの聞くものが餘り急激混雜であると認知時間から辨識時間を經て意識時間に達する前更に新なる見るもの聞くものがやつて來て纏つた意趣を起すべき暇がないのて遂纏りのない意趣を表はして卒倒したり火事などに大事な物と間違へてとんでもない物を持出したりするので御座います、斯る次第でありますから神經を使ふには何分急激、混雜を避けて周章たり急いだりせず、なる丈神經を疲らさない樣に注意しなくてはならないのです。

兒童の缺點に就き父兄の注意を求む

大澤　醫學博士

兒女の教育に就てはこれぞといふ材料は持つて居らぬが、たゞ日頃最努めて遣りたいと思つて居る二三の問題とをお話して世間同感者の參考に供するとと致しませう

△泣く習癖　日本の兒童は概して泣き易いこれには種々の原因あらうが、膨にいふ泣く子と地頭には勝たれぬと云ふ樣に、泣くとどんな我儘も聽いて遣るのも其の重もなる一つであらう、兒童を無暗に泣かせるのは無論善いことではあるまいが、就中泣きさへすれば如何なる無理我儘も通ると云ふ觀念を彼等の頭腦に刻むは實に危險この上ないとである

△叱り過る　中には隨分甘い人もあるが日本の母親は兒童を叱り過ぎはしまいか今一步進めて云ふと叱り方を誤つて居るまいかと思はれる、家の子供と同窓であつた二三人の西洋の子供時々遊びに來て居たが其れは〳〵中々活潑に盛んに遊び散らすが其の遊び方は凡て年齡にふさはしき兒童の遊びであつて言語と云ひ、動作と云ひ、聊かも不自然的にマセた所はない、此方からも時々同僚である西洋人の家庭を訪問するが兒童達の遊び樣は矢張り自分の家に來た時と少しも違つて居らぬ、若しもこれが日本の母親であつたなら、御客樣が居らつしやるになぜ其んなに騷々しくすると、屹度お小言の出る幕であるが、こゝの母親は何とも云はない、然らば西洋の婦人は一切兒童を叱からぬかと云ふに決して左樣ではない、其の言語、其動作にして聊かでも子供らしからぬとでもあつたら、傍て見聞して居ても氣の毒に堪へぬ程手強く叱付ける、かれとこれとには多少の利害得失はあらうけれども此の點には充分の注意を拂ふ可きとであらう。

△自立の志　學校からも時々注意して來るが自分の事を自分でするといふ志の乏しいのには困る、八釜しく言ひ付くると二日三日は其の通りにするが四日五日經つと復た元通りになつて出先に迫つてから其れ傘がない、外套が見えないなどゝ言ひ出すのだ、まゝごとするにも遊び出す時は獨りでせつ〳〵とあれこれと並べつけるが飽きて仕舞ふと其れなり放擲出して一向氣がつかぬ、凡てこの類の自立に乏しい致方は日本の兒童に多いが、何とかして之を矯めないと其の人格に於て甚しい欠損を招くことになるの

だ

△日本の小供は大人　今日に始まつたるとてもないが我が國では小供を大人に躾る傾きに流れて居る、六歳か七歳の乳臭い小供の叮嚀にお辭儀するのを見て西洋人は大に驚くのは無理のないことだ、お客にお辭儀をしたり、言葉遣ひを鄭重にしたり無理に行儀を善くしたりすると坊は大人であるとかお孃樣はお利巧で入らしやるなど丶褒めそやすものだから自然之に準じて年齢よりかもマセた言語を使つたり、動作をしたりすることになる、西洋では男一人前にならぬと決して政治などを口にしないばかりでなく心底から其んな思想を懷いて居らぬが、日本の青年はなか〳〵左樣ではない、小癪な奴になるとヤット中學へ這入つた位で天下はどうとか、國家はどうとか生意氣言つて居るのもある、斯樣に思想と行爲との早熟を今後にも繼續させるやうのことがあつては國民的發展上頗る憂ふ可きではあるまいか

△大人小兒同座の弊　大人と小兒とは全く境遇が違つて居るから從つて其の言語擧動も一樣には行んばかりでなく、其の多くは小兒に無用であつて、中には聞かして害になることもある、注意深い家庭は別論として、最も廣い範圍の家庭に於ける大人の談話はまだ〳〵小兒に取つては不謹愼の方であらう、よくも親子の間で斯樣も言はれたものだと聞く方で冷汗の出る事坊間往々耳にするではないか、其の癖日本の家庭は大人と小兒と接近の機會が多いから、大人の言語動作の上から不知不識の間に所謂大人的氣風を感染せしめ、弊害の方面から見ると是からして種々なる惡早熟を促がすことになる、家屋の構造其他人々の生計の情態に依り思ふやうの改良も出來まいが、小兒に見聞さして無益なる大人の言語動作に接觸させぬやう注意するが肝要であつて就中不謹愼な言葉遣ひを第一の禁物とす可きである

△下女に於ける子女　我が國の風として子供も父母同樣の言語動作を下女に加えて居るが、歐羅巴では何れの國と雖もそれなにはさせない、即ち下女と子女

とは大人と小供との關係があつて主人と家來といふ如き感情は持たせぬ、てあるから下女は主家父母の言語擧動を以て主家の子女に臨むことになる、此等も國民風俗に依り一樣には行くまいが、無暗に下女下男をこき使つて自分のことを自分てしない惡弊を矯める上に就いて隨分一考の價値あることてはあるまいか、其れから今一つは下女の撰定てあるがこれには實に困つたものだ、子女の教養上下女から受ける影響決して微かてなからう、扨て今日の場合下女其人を得るといふことは容易の業てはない、この點に關しては母なる人が全力を子女の取扱に傾注して成る可く氣心の分らない下女に手寄らぬことにするより外あるまいと思はれる、この頃ある本を見たら既婚の下女は兎もすると主家の小年に惡癖を與へる恐れがあるから、人體に依ては要心せぬと好けないとしてあつた、これも一寸參考にす可き話てある。

●米國の子守

新歸朝者牧野清子女史の談片に曰く

▲子守と子供　ボストンに居ります間あれもこれも眼に觸れ心に感じたことが澤山あります內、我が國でも斯樣させたら定めし利益になりませうと思つたことは子守衆の子供の取扱方でありました、一例をお話致しますと、公園などで腰掛に倚て子供を遊ばせて居るにも、お伽噺のやうな本を讀んて聞かせたり、或は子供に興味のありさうな事實に就いて問答しつゝ散歩するとか或ひは其處に生へて居る草若しくは木に就いて談話を試みるとか云ふ工合で、丸て老練な姆母が幼稚園の園兒を取扱ふと同樣の致し方でありました、今一つ日本の乳母や子守に慣れた眼から見て頗る驚きましたのは、自分の取扱て居る子供に向つて、極めて嚴格なことてありました、御食事後ぎ散歩につれて出る、子供のことてすからフトした感じから何か欲しいなどゝ云ひ出す時もありませうが、其れには決して應じません、若しいよ

〳〵むづかつてどうしても承知しないと、其れてはあなたと妾と何方が好いか惡るいか御家へ歸つてお母さんに承つて見ませうといふ風に遣るのですから、日本の子供が乳母や子守を下人ごなしにして、無理を透すやうなことは決して無いのです

▲子守の選方　日本の女中や子守衆に彼地の子守同樣に遣らせて見やうとしても其れは無理です、彼地の一般教育の普及方は實に豫想外でありまして、日用を辨ずる一寸した手筋を書けないものや、毎日配達される新聞を讀めないものは男女老少に通じ一人も無いといふ位であつて、就中我等日本人に目立つのは大は大なり小は小なりに、何れの家庭も必らず讀書室備はり、何れの都鄙にも圖書館の設けられてあることとてす一般の社會は斯樣に進んでありますから子守奉公するものも自然高等小學校位の程度の敎育はうけて居ます、其れに彼地ては無暗に子守を雇入れない、大事の愛兒を托するのですからなか〳〵吟味します、そして何れの點に重きを措くかといふに本人の人物形の外は年の多い經驗の積んであるといふが重もになるのです

▲慈母の位置　子女の躾方に慈愛と嚴肅との二つが入用とすれば、日本てすると慈愛は親て嚴肅は敎師といふ風になりませうが彼地の親々の中でも母親は右の慈愛と嚴肅とを兼ねて居るやうてす、ある日一友人を訪ひました、友の妻に當る七歳の小兒が其の母親に取扱はれる有樣を見まして實に感じました、丁度其日の晩餐も過ぎて小兒の就寢時間になると、未たピン〳〵して遊んで居る小兒を寢室に伴ひ、好い加減經つと寢附かうが、寢附くまいが其れなりにして戶を〆て仕舞ふのです、子に甘い日本人から見ると一寸殘酷のやうに思ひますが、米國婦人の子女の取扱方は慈愛と嚴肅と並び行ふこと万事この風にするのです

▲母親と子守　彼地では痛く虛僞を嫌ひますから子女が少しでも虛言を言つたり有ることを無いなどゝ僞つたりしやうもんなら母親の立腹は一ト通りで

ありません、併し同じ立腹と云つても無教育な婦人達がむか腹を立てゝ無暗と頑是ない子供を叱り飛ばしたり打擲したりするやうな譯ではないが、嚴格なる言葉の下に理義を正くして「汝はどしたことでそんな虛言をつきました」かと本人の心から悔ひ改むるまではどこ〳〵迄も根強く矯正を加へるのです其の次ぎは好い加減な間に合はせを言ふことを忌むのです、子女が人の顏色や素振などを見て好い加減なことでも言ひますとこれ亦前同樣ひどく母親の叱責を蒙るのです、然らば米國の婦人は子女を叱つたり責めたりするのみて暖き慈愛はないかといふに決してそうではありません、つまり緩嚴併はせ至り恩威並び行はるゝ譯であつて、其の上確乎した智量分別の下に敎へ導いて行くものですから、彼地の子女達の頭に念ふて居る「母」なる意義は、日本の母とは大分違つて居りはしまいかと思はれます、其れ故子女の母に於ける情態もおのづと日本とは別てあつてあゝしたらお母さんに惡く思はれるだらふか、こうしたらお母さんが心持を善くなさるだらうかと子供心にも常に母親の一擧一動に注意致して居るのです斯樣の次第でありまして母親は事實家庭敎育の主權者であつて、子守は或る場合に於て母親に代りこの主權を行ふのでありますから、日本の乳母や女中達のやうに主家の子女の奴隸とならないのです、西洋人は子女を子守に任かせて夫婦づれでよく外出するなどゝ不思議さうに言ひ囃しますが、自分の身代りを確實に勤めて呉れる斯の子守あつてこそ始めて斯樣に外出も出來るので、日本只今の乳母や女中達ではまだ〳〵劍呑で大事の子女を任せつきりには致されますまい

▲子守と桂庵　彼地にも矢張日本の桂庵樣のものがありまして子守に限らず男女雇人の口入を致しますが雇はれる方も雇ふ方もなか〳〵正直に相談するそうです、例へば子守を雇ふとして桂庵に口をかけると、其の注文に相應はしい候補者を選て本人一ト通の履歷を通告し、しかる後雇入る主婦と雇はる可き

子守と面會して直談を開き「汝は何故に前の主家から暇になりましたか」「主人轉任の爲め前主家はその轉任先に引越すことゝなり自分にもぜひ引きつゞき同行して務めて呉れと訖はれましたが一身の都合上この土地から去りかねる譯其れ故暇を取りました」といふ風に双方共意見を語らひたる後ち「然らば一週間幾干々々にて雇はれ呉るゝや」「其れにて宜しふ御座いますといふ相談をして取り極める云々

●今日の防寒法

（大澤醫學博士談）

▲間違つた標準　今の人は昔の人に比べて一般に贅澤になつた、外のとは暫らく云はぬとしても現に冬季の衞生に就いて殊に此れが著るしく目立つて見える我國の人は兎角衞生の目安を西洋人に置いて西洋人は一般に衞生思想にも實際の經驗にも發達してるから之れに眞似れば間違がないと考へるのであらう衣食住共に西洋人の眞似をする實は日本には別に日本に適した自然在り來りの衣食住があるヿを顧みぬは大に間違つた話と云はねばならぬ

▲西洋人の皮膚　西洋人は恐ろしく皮膚が弱いと云ふのは着物があの通り身體を隙間なく包んだ上に毛皮を着る足には襪を穿いた上に又た毛で包む襟には襟巻頭には帽子と云ふので肌の表はれてるのは僅かに手首と頭だけ偖て居室はと云へば窓や窓掛けて風を防ぎ外に煖爐があつて溫度を保つて居る出るには馬車の中も煖ためると云ふ程で血管の收縮に馴れてないから寒氣を感ずる程度はどうして日本人などの比ではない細いヿだが下婢が茶などを持つて來た僅か二三秒の間戸を開けて置いても其の寒さが酷く感ぜらるのでたとへば一寸入るにして戸は必ず閉める若し不馴れの下婢でもあつたものなら恐ろしく其不注意を叱られる次第從つて皮膚の弱いヿは非常なもので現に西洋人が海水浴に來る廣々とした日本服を着て喜んで居るが翌日になると皮膚が悉く火ぶくれになるなども珍らしくない處が我邦の人は此點は

至つて幸福なもので通常寛々とした日本服を着けて直接に日光や空氣に當つてる其の上外國には洗湯がないので一年湯に入らぬものは又可成多いが日本には洗湯があつて誰れても之に入つて始終皮膚を摩擦してるから皮膚の强いことは西洋人の比でないだから西洋人の科學的療法として尊んで居る空氣浴とか日光浴とか云ふものは一も我等にあつては有難くないのだ

▲文明と齒　食物に見ても左樣である元來西洋人の齒は恐ろしく弱く迚も日本人の比べてはない許りか其弱さが年々に增して行くので如何にして齒を强くせんかと云ふことは目下醫界の問題になつて居る之は料理法が次第に巧みになつて餘り齒の力を用ゐる必要はない食物を執ることから來て居るので日本でも近來は餘程この風習が行はれて來たが決して奬勵すべきことではない

▲昔の衞生法　人も知る通り凡ての機關は使ふに從つて力が增し使はねば衰弱するのは自然の原理であるのに今日の文明世界の發明は兎角手の懸らぬ途をと斗り工夫する爲に其結果として出たものには使用して心地のよいものの多いには相違ないが使ふ方の力も之に從つて減じて來る、處が人體を强健にするには何でも此方から外界に調和さするやうに受身になつてそれに服從する方がよいか夫れとも如何な外界の變化にも應ずるやうに變化に抵抗して變化を壓伏するやうに躾ける方がよいかとなれば無論筋肉や皮膚を鍛へていかなる寒暑にも堪へる樣にした方が第一だ西洋人の衞生法は即ち前者で日本人の此れまでの衞生法は即ち後者であつた即ち寒いからと云ふて其爲に火を焚き衣物を重ぬるよりも皮膚の强弱や血管の收縮をよく平生に馴らして置き身體を鍛へて寒くない樣にするのが其の趣意であるのだ

▲冷水浴をせよ　見よ予等の若い時分には襟卷もなければ手套もない足袋などを穿けば足袋を穿くとて笑はれたもので夫れて結構丈夫なものであつたが今日は寒いとて足袋を穿く外套を着る吾妻上衣を着る室

内に暖爐を焚く防寒の準備到れり盡せり其上食物は青年までが消化し易いものとて卵の何と擇んで食ふなど全く西洋の惡い處許りを學び自ら好んで身體を弱くするものに過ぎぬ思ふに我兵が滿洲の野に轉戰して毫も苦しみを感じずに却つて勇武を以て外國に鳴つたのは之れまで鍛へた肉體を有したからであるまいか所が今の人は贅澤になつた若し此儘に持ち續けたならば十年の後百年の後日本兵の强弱は一の重大な問題とならぬてあらうか人は贅澤には敎へずとも自然となる今日は先づ出來る丈けは防寒法や食物などは斷然歐米の惡弊に倣ふヿを止め其の第一着歩として此冬からても好い寒夜に霜を碎いて冷水浴なり寒垢離なりを取るヿを達て我國民に勸めねばならぬ先づ隗より始めよで予は已に此の何十年以來早朝の冷水浴に非常な利益を得て居るものである

▲幸福な都會　我國は實に幸福な國てある水道の外に市設の衞生組織と云ふものがなくて夫れて東京市民の死亡比例が千人に二十人とは聖彼得堡にも維納にもない優に巴里倫敦と肩を駢べるに足るのは一には新鮮な空氣と淸朗な日光を浴するヿが出來るヿ二には庭園が多く靑葉が多いヿ三には町の幅が廣く土地に餘りがあつて家が横に廣く高さに低いかの西洋のやうに上は五六層の樓上下は穴藏に棲んでる住民かないなどの點にあるまた小兒の身體などに空氣のよいヿと運動の充分なヿと養生の整つてるヿは其の三要件であるけれど夫れにしても遊び場の廣く空氣のよいヿは尤も必要だ此の二條件さへ成立すれば運動も充分出來て筋力も發達しやう從つて食慾も增加する成るならば兒童敎育などは室內よりも室外に置くヿが何よりの事だけれと夫れては敎育と衝突するから困るが場所さへあれば紙鳶揚げなどは尤もよい遊戯だ。

▲文明と敎育　敎育はどうしても國民の健康と兩立せぬ田舍の農夫に比べれば大學生の健康は素より良くない夫にしても國家他日の有爲の人となるべき人は自ら好んで身體を弱くするやうな弊害に陷つては

ならぬ文明は國民の健康と兩立せぬ百年千年の後の東京は或は五層六層の煉瓦屋が多くなるかも知れぬが夫にしても固有のアクチーウの健康法を以て文明の健康に及ぼす或る弊害を凌げぬとはないと思ふ。

●營養上に於ける米の價値

（醫學博士栗本東明氏談）

日本人は概して營養不良の者多し、これは必らずしも美味を喰はざるにのみ原因するにあらずして、全く食物と運動とが一致せざるにあるべし、然れば吾人は居常この運動（合法の）といふことに心掛けて如何にせば食物を完全に消化し得るやを考へざる可らず人若し營養不良とならんか、血液の循環完からずして爲めに身體の疲勞を生じ、遂に諸種の疾病を醸すに至る、別して肺結核の素因ある人々は其の生も死も日常の營養一つに有となれば尚ほ更らに營養を怠る可らず、然らばこの營養を採には如何にせば可ならん、そはいふ迄も無く食物と運動とにあるとにて身體の少しにても虛弱なるものは毎日牛乳二合乃至三合（三合最もよしとす）鷄卵三個より五個、獸鳥肉と魚肉とを一日置きに約三十匁宛を用ゐ且つ米飯を食することを怠る可らず、米飯は古來の習慣よりするも特にこれを用ゐざる可らずして、牛乳や肉類を採ればあとは食麵包位て澤山などいふ人あれど、これは以ての外の沙汰なり、元來米は人體を肥大ならしむる力を有し、營養上に大なる價値あるものなれば、歐洲各國にても近來は虛弱者に滋養食物として之を攝取せしむる位なれば、矢鱈に西洋かぶれして食麵包のみを食ひ、以上の價値ある米を等閑に付するが如きは不心得千万といはざるを得ず、又牛乳は之れ迄食前に用ゐし人多きがごときも、これは食後茶の代りに呑む方よかるべく、食前にては肝腎の飯の味を美ならしめざるより往々其量を減ぜしむる憂あり、吾々日本人はとりわけ米の飯を充分に攝取して、食後少くも三十分間は靜坐し血液を充分胃嚢に集中

せしめ、然るのち合法の運動を行ひて其の消化を完全ならしめ、以て其營養を盛ならしむべし、斯くすれば肺病もペストも何ぞ恐るゝに足らん、吾人の健康如何は全くこの營養に因すればよろしく心すべきなり



季節料理

治疱會本部教場主　安西こま子

▲煮豆

白豆　一升
氷蒟蒻　十枚
慈姑　五合
蓮根　一本（中位のもの）

先づ白豆即ち黄大豆を能く水洗を爲し、釜へ水を澤山に入れ、微温湯となるを待ちて豆を投入し、粗ぼ柔らかになりしとき、銀杏形に庖丁せる慈姑を入れ、此兩品が柔らかになりしとき、氷蒟蒻（暫らく水に浸しおきて竪に二つに切り之を縦に打ちしもの）と蓮根（皮を剥き其大小により竪に三つに四つ割となして之を五分程の長さに庖丁せるもの）とを加へ、蓮根が粗ぼ柔らかになるを待ちて以上四品を一緒に目笊へ移して湯を切り而して釜の中を水にて洗ひ清め、再び前の諸品を釜へ戻し入れ、之に白砂糖（四十目乃至五十目）と醤油（一合三勺程）とを加へ更に能く煮て煮汁がドロ〳〵の液となるを度と爲し火より釜をおろし暫らく蒸らずべし

▲夫婦豆腐薄あんかけ

豆腐を算木形に庖丁をなして一片づゝ茶碗に入れ之に豆腐が十分に被る程の鶏卵汁を注ぎ込み、此茶椀を蒸籠の中へ並らべ入れてむし而して蒸し上りたるとき其上面へ薄あんをかけ（薄あんの製法は昨三十八年十一月發行本誌季節欄内にあり）おろし生姜を添へ蓋を爲して侑むべし又鶏卵汁の製法は鶏卵を解き之に其量の二倍半に相當する鰹節の煮出汁（冷

したるもの）を解きたる鶏卵の量の凡そ五分の一程の醤油とを加へ能く攪拌せしものなり

▲鱈おぼろすし

第一に鹽鱈を一晝夜程水に浸しおきて鹽氣をぬき其皮を除き之を骰子形に庖丁を爲して一回湯煮をなし、其肉を手にてほぐし以て之を擂鉢に入れ、ザット摺り、再び之を鍋に入れ之に三盃砂糖を加へ（鱈肉に少しも鹽氣なきときは此際少しく鹽をも加ふべし）文火にかけ、箸三四本を以て絶へず掻き混ぜながらボロ／＼に煎り上げ之を平皿の如き器に移し攤げおきて冷すべし第二に木乾椎茸を暫らく水に浸しおきし後ち、茎を除き、之を沸騰湯の中へ投じ柔らかくにゆて丶直ちに冷水の中へ投じて能く洗ひ、固く搾りて水氣を切り之を繊に打ちて鍋に入れ、之に鰹節の煮出汁と砂糖とを加へ能く煮たる後ち醤油を注して甘辛き加減に味をつけ直ちに皿に移し扇ぎ冷すべし　第三に乾瓢を水に浸しおきし後ち之を沸騰湯の中へ投じ、柔らかにゆて水氣を搾り、之に椎茸と同様に味をつけ、五分程の長さに切りおくべし第四に上等白米一升を並飯より強めに仕掛け又蒸らし方も並飯より短くなして手早く木鉢に移し飯杓子を以て受けながら酢（前以て上等酢一合に並盃一杯の食鹽を加へ以て丼鉢又は片口鉢に入れおく）を斑なく撒りかけ、一寸と其まゝになしおきし後ち團扇にてあふぎながら掻き混ぜ、飯が全く冷めたるとき、押枠の中へ其厚さの半分程飯を平らに詰め込み次に其上へ前に拵へおきし、椎茸と乾瓢とをおき次に其上へ飯を平らに詰め込み又其上面へ鱈のおぼろを一様におき次に押枠の蓋をなしき壓しぬき而して之を適宜に庖丁をなすべし

●西洋料理法

▲ポーク、カツレツ

豚肉百目を同じ丈の四片に分ち、各片を屏風形に庖丁を爲し（切り離れぬやうに深く庖丁を入れ二枚屏風を開きたる形狀に庖丁をなす事）之を開きて俎板の上におき、庖刀の平らにて敲き又之を裏返して

敲き、次に兩面へ鹽と胡椒とを撒りかけ、次に米利堅粉を斑なく薄く塗し次に解きたる生鷄卵を塗り次にパン粉(食パンの屑を細末になせしもの)を塗して各片を俎板の上におき掌にて輕く押へ以てパン粉を肉に能くしたきしめ、暫らくおきし後ち之をヘット(牛の脂肪)又はラード(豚の脂肪)にて揚ぐべし

▲ハンバーク、ビーフ

先づ牛肉百目(四人前)を庖刀にて細かく敲き之に鷄卵四個を割り込み、米利堅粉を少しく加へ手に、混合し猶ほ鹽と胡椒と加へて味をつけ之を八個の小塊に分ち、各塊を厚さ二分程の木の葉若しくは適宜の形狀を爲し、板俎の上へ並らべおき、其上に微塵に庖丁せる玉葱を撒布し、庖刀の平にて輕く敲き以て肉片に葱をつけおき、別にフライ鍋を火に掛け、ヘット(牛脂)の小塊を入れ、ヘットが溶けるを待ち、肉片を一重にならべ入れ以て兩面をザット燒き(一回毎に古新聞紙を以て鍋を拭ふべし)、更に之を天盤の中へ葱の付きたる方を下にして並らべ入れて天火の中にて蒸燒き而して冷めざるやうに手當をなしおきて客に侑むべし

▲オイスター、オムレツ

先づ杜蠣を鹽水にて洗ひ、目笊にあげて水氣を切りおき、次にフライ鍋を强き火に掛け、牛酪の少塊を投じ、牛酪の溶けるを待ちて前の杜蠣を入れ半熟に煎りつけ、其汁を切りて細かく庖丁を爲しおき、次に鷄卵二個を丼鉢に割り込み、之に杜蠣とみぢん葱少々と鹽と胡椒とを加へ能く攪き混ぜおき而してフライ鍋を落着たる强き火にかけ、ヘットの少塊を鍋の中へ投じ、ヘットが溶けるを待ちて鷄卵を流し込み、菜箸を以て手早く大きく掻きまわし、上面が半熟となるを度となし、菜箸を鷄卵の下にさし入れて半分を起し以て殘る半分の上へ折り重ね直ちに皿に移すべし但し一人前の分量は鷄卵二個、杜蠣三四個とす

▲アップル、フリタース

先づ林檎の皮を剝き、厚さ三分程の輪切と爲し、

心の處を圓く刳りぬきおき、別に米利堅粉大匙三杯半を丼鉢に入れ、之れに鷄卵の黄蛋三個を加へドロ〳〵の柔らかさに爲し又之に白砂糖（適宜）と鷄卵三個を泡立しものとを加へて攪きまぜ、之を以て林檎の衣となしヘットにて揚げ而して少し砂糖を撒布して侑むべし



質疑欄

●質問注意　質問中診察せざれば應答し難きものは一切解答せず又解答に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まざる方は匿名にても差支なきも事務所へは姓名御報知の事●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす●總て急ぎの分は回答せず

質問者　岐阜ノ一會員

問（一）灸は身體に害を及ぼすことありや（二）灸により病根を斷つこと有之候也（三）灸のため姙娠に差支なきや（四）子宮病、痳疾、腺病、腦病、頭痛等に灸の功ありや

答（一）の御質問に對し一言以て答ふれは灸は身體に害を及ぼすことありと申さねばなりません夫れは病氣の種類にもより場所にもよりまして非常の影響が來ることがあります御注意なさいまし（二）灸はマア素人的療法のようなもので效のないとも限りませんが醫學進歩の今日果して灸が病根を斷つほどの效があるものとすれば專ら醫學社會に稱揚されねばならぬ筈でありますが灸が病根を斷つなど〻云ふことは未だ學問上より證明せられたることを聞きません要するに今日にては疾病の療法としては灸より勝りたる良き治療法が澤山あるのですから夫れて多くは一般の御醫者間に用ゐられぬ譯でありましやう（三）灸は非常に身體を刺戟するものであるから姙娠のときなどはすへぬ方よろし殊に姙娠のとき灸のすへ場所が惡るいと害のあることがあります（四）子宮病、痳疾、腺病、腦病等は何れも難症であるから民間療法などに依賴せず充分の治療を加へなければならぬ姑

息的の療法ては迚も根治することは出來ません灸が此等に効があるや否やに就ては効の程度にもよりましやうが根治などゝ信じ居るのは病氣により飛んだ間違へてあろうと思ひます併し灸に就ては前にも申上げたる通り近世の醫界ては全然用ゐないと申してもよいのてすから深くは御答へ出來ません

質問者　函館一會員

問　小兒の俄にひきつけるは如何なるわけにや又其手當法伺上候

答　是れは嘗て前號にも御答へして置きましたが民間ては俗に虫が起つたなどゝ申します御腹の内に蛔虫があつて起るのがありますが多くは昔し申す驚風今の所謂腦膜炎て早くなほさねばいけません腦膜炎と名が付くと結核性より來るのが多い小兒のひきつけた時應急の手當としては先づ氷て頭部を冷やし芥子を胸及下脚に貼り浣腸するをよしとす而して速かに醫師を招かるべきなり

質問者　一婦人

問　本年二十六才の婦人にして結婚後はや三年に相成候へどもいまだ姙娠せず從て病氣とてもこれなくいと壯健なれど月經前に於て二三日透明にしてねばりあるものを排出しまた月經時に於ては時々血液のかたまりを見ることありこれらは生殖器に於て如何なる異常あるものにや其攝生法など御敎示なし下され度候

答　總て姙娠せざるは兩者何れか缺點あること故何れも診察の上ならては其原因を知ることは出來ません男子痳病の爲めに姙娠を來さゞるあり又は其毒の傳染によりて其妻女の子宮内膜炎を起して姙娠せざることあり此病氣は世間實に夥しき病にて月經時の不攝生より起ることもあります局部に粘液のあるのは生理上あたりまへのことてすが白色なる不潔物を排出するのは本病である硼後水を「イルリガートル」と云ふ器に入れ夫れにつきあるゴム管て局部を洗ふことをなすべし但重きものは專門の醫師に早く診察して御貰ひにならぬといけませぬ夫の痳疾を治さざ

れば容易に治療せざるべし

質問者　群馬縣一會員

問　私襟のまわりに(疣)が出來誠に困ります簡易療法有之候へば御敎へ下され度願上候

答　疣のことは本誌に屢々掲載致ましたよく前號を御覽下さい尤も簡短の法としては丈夫な蜘蛛の糸か若くは女の髮の毛などで其疣をギリ〳〵縛り置くときはだん〳〵にチギれてしてしまいます

質問者　特別一會員

問　私は淺草の一會員で過日助産に參り陰毛のなき者は殆んど難産との理由を聞かれて閉口しました何卒雜誌を以て御敎へを願ひます

答　陰毛の無いと申すのは絶對的陰毛の一本も生へぬもの即ち毛根のないのであるが又毛根の營養あしき爲め生ぶ毛のみにて一見毛なきが如きものであるか俗に陰毛のないと云ふ樣な毛の少きものは隨分あるので御珍らしいと申す程でない又陰毛なきとて別に身體に異常のあると云ふ譯でない況んや難産などと云ふことは未だ醫學上聞きゝしことなし偶々陰毛なき人の難産に罹りたるよりかくは民間に言ひ傳へたるものなるべく生ゆべき處に生へること遲き爲めに人々の心配し若しくは嫌らうよりいろ〳〵の想像説も起つたのでしよう醫學上難産の多き婦人は重に産道の構造と子宮の關係によるもので又胎兒にもよりますので難産と陰毛とは別に關係なきものと思ひます

兵庫縣須摩浦一會員

問　肺結核患者が自分の痰を嚥下しても腸胃の結核に罹らざるは如何の理由でありますか

二、バターは胃に無害でありますか

答　胃の消化力は極めて强烈なものであるから健康なる胃は大概なものは消化させてしまいますから割合に害を及ぼさないのでありますが肺結核患者にありては身體も自然衰弱して總ての機關も弱はり居れば胃の消化力とても隨て影響を受け居れは同患者は自身の痰は嚥下せざるをよしとす胃のはたらきが弱

ければ結核菌も遂に腸に迄はびこり所謂腸結核を起すことになります腸結核に罹り御腹の下ること頻繁によりて倒るゝものは其例少くありません結核と云ふものは至る處ドコヱでも取り付いて種々なる病を起すのであります

(二)答　バターとは牛酪のことで牛乳を煮つめ其上に浮びたる脂肪蛋白質を取りて製したるもので頗る有益なもので胃を害するやうなことはありません腸胃のあしき病人によりては麺包にバタを添へて食事を取らすこととよし

尚第三問は誌上に回答致し兼ますから三錢切手封入御送付あれ

質問者　伊豈すゞ子

問　固形ミルク若くは粉末ミルクと称し販賣致し居り候ミルクは健康の人や病人に用ひ如何のものに候や其滋養の價値委細御教示被下度御願申上候

答　病人や健康の人に用ゐてたしかに有効なるは牛乳に優るものなし其次はコンデンスミルクなれど是とても純粋舶來の良品でなければいけませぬ鷲印ミルクは多く人に称揚されて居ります固形ミルク若くは粉末ミルクと云ふは此頃出來たものでしやうから未だ分析試驗をして見ませぬが兎角交ぜ物などが多いものですからよく〱注意せられんことを望みます

質問者　高崎一會員

問　小兒生れますと普通剃髮するの例で剃髮しますと毛も濃くなるとか申しますが又或人は剃髮せぬ方がよいと申して疑が起りましたから一寸と御伺申上升

答　仰の通り日本では生後三十日頃になりますとクリ〱坊主にする例ですがこれは甚だよくないので小兒の頭部は皮膚も柔く又骨も軟かい故成るべく頭髮を伸ばして腦を保護せねばならぬので濕疹などは頭髮を剃る爲めに起るが多い夏になると坊主になれは至つて涼しい様に思ふてゐるがこれも間違ひて實は矢張髮のある方が餘程涼しいのである又髮の毛を

剃るほど黒くなると云ふ考へは是も幼稚なことで髪の毛の黒くなるのと赤くなるのとは人種の性質によるものであるから剃髪によつて本來の黒い色を增減するようなことは方々ないのでありますから殊に初生兒の頭髪を剃ることは御見合せになりたいものです

質問　浦賀にて會員方

問　一、壹ケ年以上も醫療して効なきは不治の病に候や

二、服藥醫療を止め候も氣分食欲に大なる變無之故之を止め只養生に注意致すのみにて大なる害無之候や

三、胃液の分泌無之爲め自然營養に不足を生じ肺炎加多留を再發する恐れは無之候や

四、東京に於て胃腸專門の名醫を御知らせ被下度候

五、三十四歳の男子身長五尺二寸の者體量十二貫五百目は少き方に有之候や

答（一）御來書によれば四五年前より肺炎カタルに罹り種々の治療により近頃は殆んど快癒のよしに候か右病症なれば暖かき海邊空氣の淸潔なる處にて充分の滋養食を取らるゝが尤もよろし一ケ年以上醫療して効なきは不治の病と決して斷定することは出來ません病症によりては多年醫療せねばならぬのです夫れで全快した例は少くはありません（二）肺に關する病ひなれば重もに前申したる療法大に効あるも矢張り多少の服藥强壯劑等は醫師より受けらるゝがよし（三）胃液の分泌がまるでなければ食物消化は出來ません不良なれば宜しく早く治療せらるべし身體の何れかの一部にても惡し處あれば兎角前にわずらいたる病氣の再發し安きものに候（四）東京に於ける胃腸專門の名醫としては醫學博士長與稱吉醫學士橋本左武郎氏などよろしかるべく兩氏は何れも歐州に於て此等の學問を專攻せられたるものなり（五）男子の身長五尺二寸なれば身長の低き方にあらずされど日本の統計によれば男子の體量は十四貫以上を普通と

しあれば十二貫五百目とは體量に於て少なき方と存じ候ますく營養と共に健康に復されて十四貫以上の體軀を得られんことを

質問者　信濃一會員

問　一、毎日入浴すると冷水摩擦とは何れが衞生上によろしきや

二、黄疸とは如何なる病にて候や又此病にかゝりたる人の身體の樣子はいかになるものに候や

三、冷水摩擦の水の溫度(冬分)及同水に鹽を入るゝの可否御敎へを乞ふ

四、小兒(二才より五才位)目醒むればなくおめざなどいひて菓子など食し又夜中に乳の代りなど云ひて菓子など與へ候がいかゞのものに候や又右小兒等毎朝口中及齒など洗はずとも格別害はなきものに候や

六、冬分衣服をあたゝめて着るは害ありや

答　(一)毎日入浴すると冷水摩擦するとは其人の强弱によります餘り虛弱な人なれば冷水摩擦よりは入浴する方よろしからん併し左程虛弱でもなき感胃に罹り易き人などは冷水摩擦で習慣を作らるゝがよからん尤も毎日入浴することも決して惡しきことにあらずされば一概に何れが勝ると確答は出來ませんツマリ其人の體質にもよる事です

(二)黄疸と云ふ病氣は十八世紀の初めより人の知る所で冬夏の候最も盛んなもので輕症のものは皮膚粘膜は黄色に變するもので其病原は或は飲食物に歸するあり或は飲料水に歸するありて未だ不明に屬す又重症にありては傳染性なるもあり是等は惡寒、戰慄、高度の熱發、頭痛、眩暈、倦怠、譫語及び肝の肥大蛋白尿を排出するに至りては往々死に至ること少しとせず

(三)冷水摩擦の水の溫度冬分は微溫をよしとす鹽を入るゝも入れざるも其結果はさしたる差ひなし

(四)おめざと云ふて目醒むると共に菓子など與ふるは宜しからず且つ惡しき習慣なり朝寢床にて菓子など食するときは朝飯など自然甘くなくなる又夜中に

物を與ふるもよろしからず但し食後寢る前少しの菓子を與ふるは朝に與ふるよりも害なし習慣さへ附ければ夜中又は朝などに菓子などを求むることなきに至るべし小兒は自然甘きものを餘計に食すれば口中歯などは幼少の時より無害の歯磨楊子にてよく清淨にせしむる習慣を付けしむることになし齲歯などを未發に防がざるべからず

(五)月經中の入浴は可否の論もあることながらよく排出を豫防して入浴するは差支なき説多しとす

(六)冬分衣服をあたゝめて着ることとは別に害なし

質問者　新潟市一會員

問　妾の家内の者は麻の實(方言おたね、小鳥の好んで食するもの、又七味唐辛に和し又かんもどきにも入れたる香料)のいりたるものを嗜み一食に五勺以上も食られるさうてすが坊間ては麻の實を多食すると逆上て馬鹿になるなどゝ申升から毎食一茶匙つゝに定めて置き升が果して有害のものてしやうか又亞麻仁とは別ものてしやうか

答　麻の實は即大麻の種で亞麻仁とは別物で亞麻仁油は亞麻より製したる油である麻の實は一種嗜好物として用ゐらるゝものであッて一食に五勺以上も食べるとは餘り多過ぎるようである別に有害と云ふ程のこともありますまいが逆上ると云ふ位の事はあるかも知れませんが馬鹿になるなどゝ云ふことはありますまい

中外彙報

●刀圭界の名譽

志賀醫學博士は夙に傳染病の研究に從事し細菌學及び傳染病學に功勞多く殊に赤痢病の病原に就ては古來各國に定説なきを以て苦辛研鑽之が檢索に力め遂に明治三十年其病原菌を檢出發表し次て歐米諸國の是認確定する所となり獨り本邦醫學上の名譽たるのみならず之が爲め其治療及豫防等に至大の良法を按出し國家に貢獻する所極めて大なり又梅野技師は常に痘苗製造の事務に從事し製苗機械の創製製苗の改

良等其功勞尠からず殊に痘苗の犢體繼續法に就ては各國良法の一定したるものなきより苦辛研究二百餘傳の繼續實驗を經て常に人體を藉らず完全なる犢體繼續法の成功を發表せる如きは單に本邦醫學上の名譽たるのみならず之が爲めに製苗作業上に至大の便益を與へ痘苗の改良を遂行し製造費を節減する等國家に貢獻する所極めて大なりとし此程左の如く敘勳の御沙汰ありたり

傳染病研究所技師兼臨時檢疫事務官從六位醫學博士　志賀潔

傳染病研究所技師從六位　梅野信吉

敘勳六等授單光旭日章

●英國婦人の褒章受領

英國人ミス、ハンナ、リデル孃は夙に慈善事業に志厚く明治二十三年英國傳道會社の囑を受けて本邦に渡來し偶々熊本市本妙寺に遊び路傍に乞丐せる癩病患者の多數あるを見、惨然として惻隱の心を起し遂に之れが救濟を企圖し爾來百難を排し資金を募り經營數歲熊本回春病院を創め尋て會社の囑託を辭し專ら力を維持擴張に竭し已に其患者を收容するもの、八十六名財を投すこと五萬餘圓又出張所を設けて施療せしもの前後四百餘人の多きに及び其成績著明なるより藍綬褒章を賜與して其善行を表彰せられたり外國婦人にして我褒章を授與せられたるは之を以て嚆矢とす

●握手禁止同盟起る

リスボンにて握手禮は皮膚病傳染の憂ありとし握手禁止同盟會成り同會員は一切握手を行はず若し會員にして其規約を背きたる場合には十五片の罰金を拂ふの規定にて歐洲各地に其支會を設けたりと

▲病人の注意すべき一週間　栗本醫學博士の談に曰く呼吸器病就中鼻加答兒、喉頭加答兒、加答兒性氣管支炎、血咳、加答兒性肺炎、肺結核、肋膜炎、縱膈膜炎等の諸症を患ひしもの及び現に之を患ひつゝあるものは寒明け後往々油斷して感冒に罹り嚴冬中の用心も何の甲斐なく病勢をつのらせ恢復の付かぬことゝなるものあり別して立春後一週日を經たる今日より向ふ一二週間は最も病者の注意を要する時にして現に流行性感冒患者は頗る增加せりと

▲珍らしき埴輪土偶　帝國大學人類學教室に此程所藏となりたる土偶は極めて珍らしきものにて之によりて島田髷の由來を詳にしたりといふ該土偶は去る三十七年中武藏國兒玉郡丹庄村の古墳より發掘せる者なるが其形狀の特異にして參考上頗る有益なる由聞及びしより人類學教室にては此程特に柴田常惠氏を出張せしめて之を收容し同教室の所藏品となしたるものなるが右土偶は二千年前の婦人の形態にて總高さ一尺六寸顏の長さ三寸七分、肩幅六寸にして裾の所にても徑六寸あり顏面には兩眼より斜に頰の邊りにかけて太さ一線の朱を塗抹しあり頭上には高さ二寸の瓶を頂き髮は潰し島田にて掌狀形の櫛を挿し居るものなれど元來古代にありては無論交通の便開けず道路抔も甚だしく險惡なりしより凡ての物品を背負ひ歩くよりは之を頭上に頂きて運搬する方便利なりし故斯の如くせしものならんか此の遺風は延いて後代に傳はり京都の八瀨、大原或は伊豆大島抔に於ては今尙ほ此の風習あるも之が起源に就て其年代等を知るに由なかりしを今此の土偶によりて略ぼ之を知るを得たるなりと尙ほ去る頃某外人が泰西と東洋との上古女子の裝飾を評論せる中に泰西にては顏に白粉を塗るに反し東洋にては朱を塗りたり云々との說ありし時に當り本邦の國學者連中抔は开は何かの誤りなるべし抔云ひ居りたる事も又此の土偶によりて朱を以て顏面を裝ひたること確められ又婦人が櫛を挿すことに就ても古事記伊弉諾尊御祓の條にも見えて古來より用ゐられたるは明かなるも其の形狀等に至りては果して如何なるものを用ゐたりしかは僅かに葬禮私考附錄の櫛を挿したる土偶の圖によりて推測を下せるに過ぎざりしを亦此の土偶によりて確證を得たるものにて殊に島田髷の由來に就ては寬文年中東海道島田宿の遊女が結び始めたるより起因すとて物の本にも記載あり誰とて其以前に於て斯る結び樣のありしことは知るもの絕てなく甚しきは上古は皆下げ髮なりし抔何やらの專門の雜誌にさへ記載せられて笑止の限りなれど寬文と云へば二百四

十五六年前の事にて極めて新しきものなるが今此の土偶にては確かに上古より傳はり來りし事を認めらるゝに至りしなり尙ほ頭上に頂ける瓶は推するに朝鮮土器の類にて優に一斗以上のものを容るべき大さの者にて水若くは酒の如き流動物を運搬せし者ならんと云ふ何にしても學術上有益なる珍品と云ふべし

▲男女の壽命　生れて一歳の時は男百人に對し女九十六人にて男の方女より多く生存し五十四歳に至らば男女相平均す是れより已後は女は男より多數を占め八十二歳にては男百人に對して女百六十一人、九十歳にては女二百十六人となり百歳にては男は九人女は三十七人の割合なりと

▲汚點拔き法　インキのしみは熟した赤茄子にて洗へは白布てもきれいになり▲白フランネルのしみをとるには玉子の黄身とグリスリンとを等分に混ぜ汚點の處へ布き三十分斗り染まして置いて洗へばおちる可く▲血痕のしみは澱粉と水とて海糊を拵へ血痕の上へひろげ乾きた時に拂ひ落せばぬけると云ふ

●皇后陛下の恩賜を享けたる
戰傷の勇士七百三十七人

東京豫備病院にては戶山、澁谷其他の分院にて十一萬五千餘の傷病兵を收容し今尙ほ二千八百七十餘名の戰士殘り居りて治療中の趣は既報の如くなるが敵彈の爲に失明せる者或は手足を失ひたる者の身の上には御仁心深き、國母陛下の御惠みの露滴り掛りて義眼、義手、義足等夫れ〳〵恩賜あるべき筈にて已に恩賜の品を拜受したるもの、義眼三百〇一、義手百六十二、義足二百七十四、計七百三十七人の多數に上り何れも御鴻恩に感泣し居る事なるが滿洲の野には未だ多數の傷病兵が野戰病院內に苦悶しつゝあることゝて是等の者が還送せらるに於ては不具者となりたる者も多々あるべく殊に上に記せることは東京豫備病院に於て手續きを爲したる者のみなれば若し全國を通じて數ふる上は非常に多數なるものならんとのことなり

▲女子と寫眞術　寫眞術なるものが如何に人の品性

を高尚にして而してまた趣味の饒かなる者なるかは今更評々しく説明するを要せざる次第なるが取り別け女子に必要なりと云ふは何れにしても家庭は圓滿優美にして趣味多からざるべからず此點より見るも家庭の王たる婦人が斯道の素養ありて家政を司り居らんには子女の教養の上に於ても裨益する所尠なからざるは云ふまでもなきことなり、殊に寫眞術の研究はもしも技術の要領を解するに至らば野外の撮影に興ある樣なるべく而して野外の撮影は重もに早朝旭日の光眩ゆき頃か或は夕日を浴びて色どり面白き景色抔に趣味ある者なれば自然に朝夕の運動ともなり從て蟄居的なる本邦婦人の弊習を改めて旅行の面白味を解せしめ延ては快活なる精神を養ひ得る樣にもなり旁々利益する所多かるべきは勿論亦單に之を婦人の職業として專修するも近來は其の用途大に開け市中の寫眞店に於ても婦人の技師を渴望し居り現に雇用し居る所尠からず種々なる書報の發行所抔に招聘せらるゝも優に一家を爲すべき報酬あるべく亦或は獨立開業するも充分の望あるべし斯の如く娯樂としても職業としても女子が專修する丈の價値あるものなるか便宜上斯道の營業家に就て學ぶも宜しかるべし

▲凶作地救濟婦人會　凶作地救濟に就ては上下擧りて盡力しつゝある中に婦人團體として尤も簡短に尤も實益ある主趣を以て見出しの如き救濟會は起りたりソハお互に臺所にて少し注意致しましたならば一個の救濟袋は一週間か十日にて充たされます而して夫れが窮民數日の命を繋ぐのでありますから慈善としては洵に容易い云々」なる趣意の下に

井口たづ子、鳩山春子、濱尾作子、羽田三緒子、若宮米子、高木鏻子、內海きく子、山脇房子、古市幸子、青山孝子、秋間爲子、岸澄子、宮本らく子、杉浦俊子、

の十四婦人は去八日午後一時より麹町永田町なる大日本婦人教育會本部に會合し東北の窮民九十五萬を救濟す可く左記の規程の下に汎ねく天下の慈善家に

訴へて大いに竭すところあらんとすと
一、救濟袋と稱する布袋(一升入)を弘く配布し是れに米、麥、粟等穀物の寄附を乞ひて凶作地に送ること
一、米は質の良否を問はざれども必ず白米に限ること
一、金錢を以て穀物に代用する時は一袋金二十錢の割とす
一、救濟袋は口を糸にて縫ひ會名のなき半面へ寄附者の住所姓名を記されたし(金錢の寄附者も同樣袋に記名のこと)
一、各區に若干名の委員を置き袋の配布及び取集め方を依頼すること
一、集りたる救濟袋は是れを三縣知事に依頼して窮民に配布すること
等にて濟尾(小石川區金富町)鳩山(小石川音羽)古市(本郷弓町)宮本(神田雉子町)なり何れへなりとも最寄なる發起者へ尋ぬれば萬の事項判然す可し

▲婦人の入浴時間と對鏡時間　婦女通信社にて五名の女學生と七名の夫ある婦人とに就いて毎日午前六時より午後十時までの間に奈何時間湯に費し幾時間鏡に對ふかを取調べたるに漸く亞ぎの結果を得たり要は二十五圓より五十圓までの間の月給どりにて日ごろ女中とては置かず只だ一人の少女を雇ひ居る者より取れり即ち夫婦と小女のみ▲入浴時間(一時間乃至一時間半)
一、白粉を全面全身に塗り石鹼にて洗ひ落し漸く浴槽に入る軈て入浴
一、全身四肢に垢すりをかける、斯くて入浴
一、同樣石鹼を手拭につけて全身四肢をこする而して朴の木炭(輕石の代りにて一冬ほど糠味噌の中へ入れて置く)にて手の掌指の尖をこする、斯て入浴
一、糠袋にて腰より上をこする、四度入浴
一、湯槽の中にてスッカリ全身を洗ふ
一、替湯を被り其の熱き方にて髮の癖を直し白粉

をつけ石鹸で手を洗ひ更に又糠粉にて手足をスッカリ洗ひて漸く出る
以上の仕事は奈何なる婦人にてもなさる可く早きは一時間長きは一時間半、略する婦人は四十分乃至五十分なるが此外女湯には二臺乃至四臺の足つき鏡を備へあれば從ッて對鏡時もある可し

▲對鏡時間（一日間に一時間と四分）

第一の對鏡時間…………二分間
（便所より歸りて直く髮を鏡に見る）
第一の洗面時間…………七分間
第二の對鏡時間…………五分間
（洗面直ちに顔を鏡に見て髮梳る）
斯くて漸く朝飯にかゝる
第二の洗面時間（十時ごろ）……五分間
（座敷其他の掃除後の洗面なり）
第三の對鏡時間…………二十分間
（此時衣を着替へ白粉などぬるなり）
（以上午前中）
第四の對鏡時間（午後九時前後）…十五分間
（此時は多く湯上りの折なれば隔日とも見る可けれど婦人によりては毎日に對鏡するもあり）

以上は東京の婦人が毎日〳〵繰り返へし居る身だしなみにて毎日入浴するとすれば少くとも一日間に二時間以上おしやれの爲に時間を潰ぶすものとも見る可し即ち一ヶ月に六十時間、一ヶ年に七百二十時間人生五十年の間には三萬五千時間これを日に換算すれば一千五百日の間湯へ入り鏡に對ふ爲に費すなり然れども日本婦人の春潮期は平均十三年にて十八歳よりお洒落するものとして三十二年間としても二万三千四十時間にて是れを日に換算しても一晝夜二十四時間、即ち九百六十日間は入浴と鏡の爲に費すなり更に是れを藝娼妓の如きお洒落を専門とする者に見るときは働く時間よりは夫れの方却ッて多かる可く當代ハイカラ式の女學生にも前記の半分以上の時間即ち少くとも六百日位はおめかしの爲に費すなり
記者曰く東京士女の果して皆此の如しとせば御化

粧も亦甚だしと云はざるべからず殊に尤も不思議に感ずるは入浴の際白粉を全面全身に塗るとは何事ぞ石鹸にて洗ひ落すとは言へ粗製の白粉なりせば鉛毒に感じ不測の疾病を起すに至らん蓋し公衆衛生のまだ進まざるには驚くの外なし東京の婦女子一般に然とせば實に呆然たらざるを得ざるなり

▲基督教女子青年會の創立　千歳一遇戰勝の好機會に乘じ同會は津田梅子女子共會頭となりミセス、バック氏副會長となり其他知名の夫人十三名の貴婦人により創立せられ大に青年婦女の教養保護に任ぜられんとすといふ尚詳細は次號に

●精神病に就て

▲戰爭終結の今日　は戰場にありし時は不規則なる生活及び心身過勞等の結果精神病患者の增すは歷史の證明する處なるに我社會の精神病患者に對する不注意は如何にも甚だし外國の例を示せば

▲英國の精神病院數　は公私共に五十六にして收容患者數十二萬八百九十九人、獨逸は普漏士、バウアリヤ、ウエルテレベルグ、サクソンのみにても二百十三個ありて收容人員は五万十八人、其他文明諸國は皆之と大同小異なるに日本の精神病者は内務省の三十六年度調査によれば一万九千六百五十九人ありて而も病院收容者は其半數にも充たず而して此の

▲大家ヘルマン氏の統計　によれば歐洲には人口千人中に三人の精神病者ありと言ひ三人中一人は收容すべからずと云ふ此標準によれば東京府は三十七年末に二百五十七万八千百十四人の人口を有すとせば患者は七千七百三十四人ある勘定にして日本全國には十餘万の患者ある都合なり而して此の比例を以て東京府巢鴨病院最近十年の退院者三千百八十七人中在院しながら不敬罪、殺人、放火、自殺等の合圖をなせし者百分の四ありしを見れば日本中の精神病者中

▲四万人は不法又は背德　行爲をなす恐れある者なるを見る之を重輕罪被告人數十三万乃至十四万人に比較し來れば寒心の至りならずや然るに我國に於ては精神病者に對する監督救護の設備は情けなきものにして現に東京に公立一、私立七あるも其收容及監置員數は昨年十一月統計に於て一千百十六人に過ぎずと云ふ

▲韓國の赤十字事業　日本赤十字社にては韓國に於ける赤十字事業の發展を圖る爲め既に鶴原統監府總務長官に總務委員を囑托し着々事業の進捗を謀りつゝありしが日本内地とは全く其趣を異にせさる可からざる事情ありて中央部の組織及人民生活の度合等に就き專ら調査中の由なるが調査濟の上は大に其の面目を一新すべきものありと云ふ而して刻下に於ける情況は頗ぶる好況を呈しつゝある模樣なりと云ふ

▲全國傷病患者　現在全國各豫備病院に於ける傷病兵患者は二萬四千八人（内在院一萬二千五百三十九人、轉地一千四百六十九名）にして其各豫備病院別は左の如し

病院名	人員	病院名	人員
東京	三、二八九	仙臺	六二九
名古屋	一、二〇一	大阪	八四〇
廣島	二、四八六	熊本	五四八
旭川	四〇六	弘前	六六六
金澤	一、四三五	姫路	九一二
善通寺	七七二	小倉	七六一

▲同仁會の種痘事業　同仁會にては韓國に於て最も悲慘を極めつゝある天然痘撲滅の爲め痘苗製造種痘事業普及の爲め豫て經營する所あり今回の京城、廣濟院院長として休職陸軍一等軍醫々學士佐々木四方志を派遣することに決定し同氏着任の上にて愈々着手實行する由

▲淸國貴婦人の足部治療　米國駐在淸國公使夫人は豫て淸國婦人纒足の弊を矯め既に之に依て生じたる不具なる足部を治療して生理的に復せしめんとの志を以て近頃米國の醫師を聘し先づ自身の足部を治療せしめたるが此事は淸國婦人社會に頗る有益なる大影響を與へつゝありと云ふ

▲志賀博士の出發　傳染病研究所技師醫學博士志賀潔氏は本年三月マニラに於て開催する醫學會に參列のため去十一日出發渡航の途につきたり

▲滿洲渡航者の種痘　滿洲に於ける本邦居留民の痘

症に罹るもの多く關東州總督府より其筋に注意し來りしより警視廳第三部にては今後渡航する者にて公設の種痘所又は官業醫の種痘を受け其の證書を携帶せざれば渡航せしめざる事となれり

▲全國聯合醫學會　來る四月四日より七日まで全國聯合醫學會を東京帝國大學に開會する筈にて目下已に夫々準備中なりと

▲惡性感冒の流行(札幌)　紗那郡紗那村にて一種感冒流行し患者千七百七十二名(内死亡四名)に達す

▲下關黑死病彙報　野田防疫課長は吉川事務官、齋藤警視、栗屋助役、片山第一課長を同行し去十一日田中町馬借通りの大掃除實況及び高尾避病院、高尾遊水地等を視察したりと▲田中町、赤間町、細江町の斃鼠三頭は有菌鼠發見確定合計五十三頭なりと▲又去る十日の捕鼠總數二千八百九十八頭▲去十二日午後一時より中之町民、夜に入りて外濱町引接寺に招集し早見檢疫醫、片山市役所第二課長は黑死病豫防に關する心得に就て講話をなしたりといふ

▲義捐金募集　竹中醫學士より寄稿の如く新潟山井高等女學校教諭の慘死に付左の如く義捐金募集の計畫ありと報じ越れたり今求により其全文を左に掲ぐ

謹啓本縣立高等女學校教諭たりし故山井景延氏の遺族に關し茲に各位の高誼に因り贊助を仰かんとする一事あり同氏は各種の博物標本採集並に製作に堪能ありしを以て從來之れが任に當り昨年末亦西蒲原郡に出張して其の採集に從事中他の者の誤つて發せる銃彈の爲めに終に非命の慘死を遂げられたり誠に痛惜の極と謂ふべし然るに其の遺族には夫人の外に八人の遺子あり其の長男は年僅に十六にして現に中學校第一學年生たり此れ等遺子の其の志業を完成するは前途尙頗る遼遠なりとす是に於て我々同志相謀りて志士仁人の同情を請ひ義金を募集し以て此の遺子教育資金の幾分を補助せんと欲す冀くば各位此の趣旨を諒とし應分の義金を投ぜられんことを悃望に堪へざるなり敬白

尙義金は當二月中左記發企人の内へ便宜送達せら

れんとを乞ふ云々

明治三十八年二月

發起人

新潟師範學校	江口照造
同　中學校	長澤市藏
同　商業學校	中隈仙五郎
長岡女子師範學校	川面松衛
同　高等女學校	荻原此吉
柏崎高等女學校	澤吹忠平
高田高等女學校	中野豐記
新發田高等女學校	佐藤要吉
新潟高等女學校	森田利房

大日本婦人衛生會記事

本會二月例會

二月三日第一土曜日午後一時半より例により神田區一ツ橋通女子職業學校内に於て例會を開くドクトル富士川游氏には前回より續きたる疾病の話に付熱心に講話せられ追々佳境に入り次回よりは可成實物を示さるべしといふ第二席はドクトル土田卯三郎氏酒の害に就き演説せられたり本會よりの勸誘により役員を初め會員にも勉めて來會せられ午後四時散會を告げたり

茨城支會

●新年會

一月二十一日第三日曜日午前十時より第二公園内弘道館にて左の順序により開會出席者七十餘名頗る盛會午後四時閉會

順序

一、開會の辭
二、彈琴　中村淺香氏連中三名
三、衛生談　波多野病院長
四、談話　岡君
五、茶菓饗食
六、餘興(狂言)　平野君父子
七、持寄の福引

米澤支會

●新年會

一月十四日第二日曜日午前九時より米澤市公園内議

非堂に於て新年初會を開く開會の順序は左の如し

一、開會の辭　上杉會長

二、火傷及凍傷の話　高橋逸之助君

此間休憩茶菓あり

三、黒人の看護婦　上杉會長指導？

右は會長米國にいませしとき實見せられし赤兒に湯あみせしむる實況

右終り英語唱歌あり

四、四季の友　生田流箏　吉澤夫人

五、羽衣　謡曲　山田會員

六、みだれ　吉澤夫人

七、花合戰　會員七名

八、福引

四時半散會

右の餘興中黒人の看護婦は非常に珍らしきものなりしと(記者曰く活人畫？)其他彈琴謡曲共に何れも非常の喝采を博して盛會なりしといふ

弔詞

●勝間田圖書頭薨去　豫て御病氣の處去月末日逝去遊ばされたり同夫人は永々本會新潟支會の會長として御盡力あらせられたれば本月二日御葬儀の際は本會役員及事務所員は會葬して吊詞を述べたり

●本會特別會員相馬陸子逝く　豫て御病氣の處遂に逝去せられたり同夫人は本會評議員の任を負れたることありしが誠に惜しむべき事なり御葬送當日は事務所員役員を代表して會葬せり

●原胤昭氏六男の永眠　子寳多きを以て人々の羨望せる原氏の家庭に於て不幸にも六男萬胤氏事本月十二日永眠せられたり

本會は玆に以上の三氏に對し謹みて

深厚なる哀悼の意を表す



○本會入會者

○事務所申込

●豐後國大分荷揚町百十四　通常會員　犬塚ゑみ子

◎青森縣三戸郡三戸町字六日町十六　仝　松尾うめ子

●芝區松本町四十四　仝　南波常子

●芝區愛宕町二ノ十四　〃　中山つね子

●相州藤澤大坂町　仝　三留織江子

○淺草中鴻照子紹介

●淺草區三間町五、山本方　特別會員　鶴岡登志子

○麴町加藤常子紹介

●麴町區有樂町三ノ一　通常會員　増田浪江子

○赤坂山梨識子紹介

●靜岡縣富士郡岩松村岩本　通常會員　影山谷子

○赤坂志村むね子紹介

●赤坂區氷川町五十　通常會員　木部まつ子

○京橋白神茂子紹介

●日本橋區上槇町十一、清水利助方　通常會員　松田くに子

●日本橋區材木町二ノ五　通常會員　淺野てう子

○新潟支會入會者

○幹事中村しげ子紹介

●新潟市秣川岸　通常會員　倉田きく子

●仝市下大川前通二ノ丁　仝　富田こと子

○小布施すみ子紹介

●仝市學校町一番丁　仝　宮坂土佐子

○評議員中村きん子紹介

●仝市市町通八番町　仝　小黑はつ子

○幹事澁川たま子紹介

●仝市旭町一番丁　特別會員　長澤とう子

●仝市仝町一番丁　通常會員　金井やす子

○篠原きし子紹介

●醫學町　特別會員　森ちか子

○會長竹山れつ子紹介

●三島郡寺泊町字年友　仝　柄澤はぎ子

○評議員田中まち子紹介

●仝市雪町　通常會員　野口たつ子

●仝市礎町五ノ丁　通常會員　島田きよ子



○轉居

●下谷區新坂本町五、北二十三號へ　坊とせ子

●小石川區表町百九、同志看護婦會へ　武田きく子

●小倉市大坂町十ノ百二十四へ　金竹まさ子

●上海虹口靖遠街第二號松岡洋行內へ　松岡野子

●廣島市下流川町四十一へ　土屋とり子

●福岡縣嘉穗郡熊田村下山田炭坑へ　佐藤すみ子

●長野縣南安曇郡穗高町へ　小林部子

●青森縣三戶郡三戶町へ　松尾常子

●麻布區飯倉片町三十へ　志水貞子

●名古屋市南大津町百四十一へ　服部鎮子
●仙臺市東一番丁六十四へ　遠藤豐子
●名古市東白壁町二十二へ　石栗とせ子
●佐世保市中通免六九八ノ第一へ　芳賀きた子
●牛込區矢來町四、四十九號岩崎方へ　秋田いちゑ子
●日本橋區新和泉町三へ　後藤はつ子
●芝區芝牛町十五へ　植村まき子
●麻布區今井町三十六へ　相磯まさ子
●四谷區左門町五へ　佐伯みつ子
●芝區田町五丁目へ　白石まむ子
●赤坂區新坂町十七へ　川原きん子
●長崎縣佐世保市福田中通り五へ　大舘きみ子
●赤坂區氷川町五十二へ　酸井くに子
●仁川旭二番戸へ　矢田やす子
●千葉縣佐倉宮小路百十九へ　岩佐くに子
●芝區三田四國町二へ　河島文子



○寄送交換雜誌（一月分）

●日本赤十字　京橋築地二ノ二十一　日本赤十字發行所
●日本婦人　府下豐多摩郡澁谷村字常盤松御料地內　帝國婦人協會
●新潟縣衛生會雜誌　新潟縣廳內　新潟縣衛生會
●日本の家庭　神田區表神保町二　同文館
●北海實業新報　北海道札幌區北二條東二ノ一　北海實業新報社
●統計集誌　京橋區山城町六　東京統計協會
●東京藥事新報　京橋區柏町四　東京藥事新報社
●東京市教育會雜誌　東京市役所內　東京市教育會
●東京小間物化粧品商報　日本橋區馬喰町二ノ十九　東京小間物化粧品商事務所
●家庭新聞　熊本市內坪井町百五十八　家庭新聞社
●家庭雜誌　麴町區元園町一ノ二十七　由分社
●家庭　福岡市船町十七　家庭新聞社
●大日本私立衛生會雜誌　京橋區宗十郎町七　大日本私立衛生會
●通俗衛生　大阪市西區土佐堀通三ノ二十九　大阪私立衛生會
●牟婁新報　和歌山縣西牟婁郡田邊町上屋敷町六五　牟婁新報社
●藥學雜誌　牛込區下宮比町八　日本藥學會
●藥石新報　大阪市西區江戶堀下通三ノ三十六　藥石新報社
●藥業時報　神田區鍛冶町二十一　藥業時報社
●經濟新報　麴町區永田町二ノ壹　經濟新報編輯部
●京濱實業新報　神田區北神保町八　京濱實業新報社
●婦人世界　大阪市南區末吉橋通四ノ六三　浪華婦人會

●婦女新聞　牛込區東五軒町四十一　婦女新聞社
●婦人と子とも　本郷區女子高等師範學校内　フレーベル會
●福田會月報　麻布區笄町百三　福田會育兒院
●國家醫學會雜誌　本郷區富士町一　國家醫學會雜誌發行所
●工手ノ母　大阪市北區西野田新家四ノ町番外三二五　工手ノ母新聞社
●交通世界　埼玉縣浦和町四九五　交通協會
●衛生報知　神戸市相生町一ノ二七　私立神戸市衛生會
●越佐教育雜誌　新潟市東仲通一番町二一七　越佐教育雜誌社
●英學生　神田區駿河臺北甲賀町十　東四社
●衛生新報　下谷區池ノ端仲町廿九　衛生新報社
●愛國婦人　麴町區飯田町一丁目　愛國婦人發行所
●草樂新聞　大阪市南區心齋橋筋二ノ百七　草樂新聞社
●產科婦雜誌　日本橋區濱町三ノ七　日本產科婦協會
●埼玉衛生新誌　埼玉縣北足立郡浦和町二三五　埼玉衛生新誌社
●教育公報　神田區一ツ橋通　帝國教育會
●明治の婦人　麴町區下二番町廿一　明治の婦人社
●明治の家庭　牛込區納戸町六　明治の家庭社
●兒童教育　神田區末廣町十　兒童新聞社
●神經學雜誌　小石川區駕籠町東京醫科大學精神學教室内　日本神經學會
●廣島衛生醫事月報　廣島市猫屋町　廣島衛生醫事月報社
●ひじり慈門寶鑰　愛知縣岡崎町菅生番外　慈雲堂發行所



消化新藥



工學博士**高峰讓吉**氏に由て發見せられたる有名なる胃腸新藥タカヂアスターゼは粉末錠劑水劑の數種として各藥店に販賣せらる

摸造品數多あり必ずタカヂアスターゼ名稱及弊店名義に乞御注意

本劑に關する說明書は御申越次第附呈す

東京市南茅場町二番地　三共商店藥品部

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を撰任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依頼すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出つべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ひるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依頼スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ届出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會々費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ第九條 特ニ支會規則ニ掲ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

明治三十四年二月三日創立

事務所宇都宮市馬場町

宇都宮支會

私立大日本婦人衛生會 米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を増進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に置く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條 毎月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に届出べし

但し巳納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 會員及員外篤志者より金品の寄附あるときは役員協議の上特待員又は賛成員となすへし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條 特に支會則に掲けさるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し
●通常會員章
第三號
メツキ製拾二錢、送費六錢
●第二號
正銀製四拾錢、送費六錢
●終身及特別會員章
第一號
七十錢（黑塗箱入送費九錢）
六十錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らす御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なりも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

本誌一部定價貳拾錢

東京市牛込區上宮比町八番地
發行所　私立大日本婦人衛生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中鶴三郎

東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　飯田三千太郎

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

明治三十九年二月十九日印刷
明治三十九年二月二十日發行（毎月一回二十日發行）